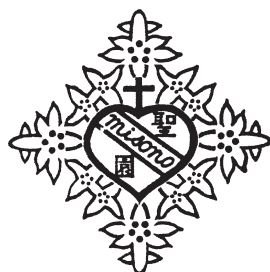


平成25年度 授業概要



S Y L L A B U S

聖園学園短期大学
保育科

目 次

1 年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学Ⅰ	1
くらしと憲法	2
日本語の表現	3
文学	4
子ども文化	5
ボランティア活動	6
子どもと自然	7
健康・スポーツ論	8
体育実技	9
情報処理（初心者）	10
情報処理（経験者）	11

◆専門科目

音楽の理論と合奏	12
声楽Ⅰ	13
器楽Ⅰ（ピアノ）	14
幼児造形Ⅰ	15
福祉基礎理論	16
児童福祉と家庭	17
子どもの保健ⅠA	18
子どもの保健Ⅱ	19
小児栄養	20
保育の基礎理論	21
社会的養護Ⅰ	22
保育の心理学Ⅰ	23
保育内容の指導法 人間関係	24
保育内容の指導法 環境	25

保育内容の指導法 言葉	26
幼児指導法	27
乳児保育Ⅰ	28
障がい児保育	29
教育実習指導	30
保育実習指導Ⅰ	31

2 年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学Ⅱ	33
保育の英語	34

◆専門科目

声楽Ⅱ	35
器楽Ⅱ（ピアノ）	36
幼児造形Ⅱ	37
幼児造形Ⅲ	38
幼児体育	39
運動表現	40
児童文学	41
数論	42
生活科の研究	43
相談援助	44
保育相談支援	45
家族援助論	46
子どもの保健ⅠB	47

保育者論	48
教育原理	49
保育の心理学Ⅱ	50
発達心理学	51
教育制度	52
教育・保育課程総論	53
保育内容総論	54
保育内容の指導法 健康	55
保育内容の指導法 表現	56
乳児保育Ⅱ	57
社会的養護内容	58
援助に生かす心理学	59
保育・教職実践演習（幼稚園）	60
保育実習指導Ⅱ	61

教育実習指導	30
保育実習指導Ⅰ	31

※実習指導については、2年間を通して行う。

注. 今年度開講しない科目については省略

授業と科目の履修について

●出欠席等

- ① 出欠席については、授業科目毎に科目担当者が確認する。
- ② やむを得ない理由により欠席する場合は、科目担当者に「欠席届」を提出すること。緊急を要する場合は、事務局・教務課（018-862-0337）に連絡をすること。
- ③ 病気等やむを得ない理由により長期欠席（2週間以上）をする場合は、医師の診断書等を添えて「欠席届」を教務課に提出する。
- ④ 遅刻は授業開始10分以内とし、科目担当者に申し出ること。早退は科目担当者および担任に申し出ること。遅刻、早退は2回につき1時間分の欠席として扱う。
- ⑤ 本学には公認欠席や忌引の扱いはない。ただし、やむを得ない理由（災害、就職試験、実習オリエンテーション等）による遅刻・欠席については考慮される場合がある。
- ⑥ 授業の出席時数が、基準の3分の2（実習、実技は5分の4）に満たない者は受験資格を失い、単位は修得できない。

●科目の履修

- ① 科目には必修・選択の別がある。
- ② 選択科目は更に選択必修と自由選択の科目に分けられる。
これらについては、時間割表やシラバス等を参考に、学生自身が自らの責任において決定し、指定の期日までに教務課に「履修届」を提出しなければならない。
- ③ 「履修届」は、単位算定と成績評価の基礎となり、卒業及び教育職員免許状申請・保育士資格取得の要件につながるものである。履修の具体的な説明については、次の時期に行う。
1年次履修科目：教務課が適宜行う。
2年次　　〃　　：教務課が適宜行う。
- ④ 科目によっては、授業内容上、受講者数を制限したり、受講者数が極めて少ない場合は開講しないこともある。
- ⑤ 履修科目の変更は、原則として指定期間内のみとする。
- ⑥ 届出以外の科目の授業及び試験は受けられない。
- ⑦ 自由選択科目について
 - (1) 自由選択科目を途中放棄する場合は、学長が定める日まで、学生部・教務課に申し出ること。
 - (2) 指定された期日までに途中放棄の申し出をしない場合、原則として、その後の放棄は認められない。
 - (3) 自由選択科目を途中放棄した場合、成績表には／線で表示され、『／線は、自由選択科目の履修辞退』と記する。
- ⑧ 実習について
学内における学習内容を基礎とし、これらを総合的に実践し応用する力を養うことを目的に、幼稚園・保育所・その他の児童福祉施設において「教育実習・保育実習」を行う。
「実習」は、保育科の教育課程でも特に重要な意味を持つものであるため、これらは「教育・保育実習の手引き」に基づいて履修する。

●成　　績

- ① 各科目の成績については、試験・レポート・作品・実技・実習・平素の学習状況・出席状況等により、総合的に評価する。
- ② 評点と評価基準は、次のとおりとする。
(学則第24条第2項)

評　　点	評　　価	
100点～90点	S	合　　格
89点～80点	A	
79点～70点	B	
69点～60点	C	
59点以下	F	不　合　格

1 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	40%
							レポート	40%
							提出課題	10%
							授業態度・意欲	10%
担当者	国枝 幸子	単位数	2	学年・期間	1 年 通 年			
授業のねらいと概要		キリスト教及びその人間観の基礎的なことを理解し、正しい倫理観をもって生活することを学ぶ。						
到達目標		・基本的なキリスト教の祈り、聖書の読み方が分かる。 ・旧約聖書の基礎的な内容を理解する。 ・キリストの生涯及びその主な思想を理解する。 ・現代の生命倫理問題を理解し、正しい人間観に基づき、真剣に考えることができる。						
学習者への期待（含準備学習）		・真の愛、人生の目的、命への関心など、疑問を持ちながら学ぶようにする。 ・自らの内面生活を豊かにしつつ、互いを尊重し合って生活することを意識する。 ・DVD視聴後の感想や課題、レポート提出にあたっては課題に沿って、よく考えて書くようにする。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		キリスト教、聖書、人間					
2	祈りと聖歌、聖書		主の祈りと聖歌、4福音書					
3	キリスト教の特徴その1		被造物、肯定的人間観、契約思想					
4	キリスト教の特徴その2		聖書の歴史観、愛の掟、隣人愛					
5	ギリシャ思想における愛		エロス、フィリア、アガペー					
6	エロスの愛		恋愛、愛と性					
7	フィリアの愛・アガペーの愛		友情、真の愛とは					
8	結婚の意味		愛と永続性					
9	聖心の愛		神の愛、ミサの制定、ミサの参加について					
10	聖心のミサについての振り返り		レポート作成					
11	テスト範囲と復習		復習					
12	人工生殖について		精子、卵子提供、市場原理と倫理観					
13	命について		命の誕生、出生前診断、命の選別					
14	天地創造と人間の立場		アダムとエワ、地球環境と人間、原罪					
15	ユダヤ民族の父祖		アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ物語					
16	モーセとエジプト脱出		神の十戒、仲介者としてのモーセ					
17	夏休みの振り返り		「私の成長」					
18	ユダヤ民族と王の支配		預言者、サウル王、ダビデ王、ソロモン王					
19	新約聖書とイエス・キリスト		ユダヤ民族とローマ帝国、メシア思想					
20	待降節とクリスマス		アドベント、マリアとヨセフ、マリアへのお告げ					
21	イエス・キリストの誕生		ベツレヘム、救い主、羊飼ひ、グローリア					
22	クリスマスミサについて		最初のクリスマス、博士たちの礼拝					
23	イエスの時代とイエスの教え		終末思想とメシア思想、ユダヤ教、律法、イエスと神の国					
24	復習とテスト準備		復習とテスト範囲について					
25	冬休みの振り返り		レポート作成、恵みと成長					
26	聖書の世界		DVD					
27	イエスの受難と復活		ペトロの否み、十字架、苦しみと喜び、復活、人間の救い					
28	死別の受容		悲嘆処理と援助					
29	告知、死		インフォームドコンセント、死の準備					
30	テスト返しとまとめ		まとめ、DVD					
テキスト		フランシスコ会聖書研究所訳：『新約聖書』（サンパウロ）						
参考文献		『旧約聖書』 『聖書物語』 百瀬文晃著：『キリストを知るために』（中央出版）						

科目名	くらしと憲法	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	20%
担当者	山本 尚子	単位数	2	学年・期間	1 前期			
授業のねらいと概要		憲法の内容と基本的な考え方を自らの社会生活に根ざしたものとして理解する。						
到達目標		・憲法の基本的な考え方を理解する。						
学習者への期待 (含準備学習)		様々な視点から物事を考えてもらいたい。積極的に発言してください。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	憲法の意義		憲法の規定する内容を確認し、各法律との関係について理解を深める。					
2	憲法の歴史		日本国憲法の成り立ちやその位置づけについて説明する。					
3	幸福追求権		幸福追求権とは何かということについて具体的事例を取り上げながら理解を深める。					
4	法の下での平等		法の下での平等が意味する平等について、具体的事例を通して考える。					
5	内心の自由		内心が制約されていた歴史を踏まえ、内心の自由の不可侵性を理解する。					
6	表現の自由		表現の自由の重要性を理解し、さらに、現代社会においては、送り手としてだけでなく受け手として保障されていることを理解する。					
7	経済的自由権		経済的自由権はどのような権利を保障しているかということを説明する。					
8	人身の自由		刑事手続の流れについて説明をし、被告人等に関する基本的人権を保障する意味について考える。					
9	社会権		昨今の生存権や労働権についての具体的事例を取り上げながら、社会権が保障する内容を説明する。					
10	国民主権		国民主権の意義について説明し、国民主権が我々の生活をどのように保障するのかということを理解する。					
11	国会・内閣・裁判所		国会、内閣、裁判所のそれぞれの権能、そして三者間の関係について説明し、統治機構の理解を深める。					
12	地方自治		地方自治の意義について理解を深める。					
13	平和主義		具体的事例を取り上げながら、憲法9条の意味について考える。					
14	憲法の保障		違憲立法審査権について、具体的事例を取り上げ、説明する。					
15	最高法規性		憲法が国内において最高法規であることの意味を説明する。					
テキスト		『岩波セレクト六法 平成25年版』（岩波書店）						
参考文献		『憲法 第五版』（岩波書店）						

科目名	日本語の表現		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	－
								レポート	－
								提出課題	80％
								授業態度・意欲	20％
担当者	大原　かおり		単位数	2	学年・期間	1　年 通　年			
授業のねらいと概要		国語表現の基礎を学び、適切な表現力を身に付ける。							
到達目標		・日本語の特質を理解し、適切な表現を用いた言語活動ができる。 ・グループ活動を通して、コミュニケーション能力の向上させることができる。							
学習者への期待（含準備学習）		・自身の言語生活を振り返り、望ましい国語表現に対する問題意識を持って授業に臨んでほしい。 ・新聞の記事をよく読み、社会の一員として知見を広げるように心がけよう。							
回	授業計画			授　業　内　容					
1	オリエンテーション			保育者としてよい国語表現をするために					
2	会話表現（基礎編）			話し方の基本					
3				敬語の使い方					
4	会話表現（応用編）			自己紹介の仕方					
5	〔スピーチの実施〕			※お薦めの本について紹介する（5分間、以後毎時間2名ずつ）					
6									
7	文章表現（基礎編）			文章作成上の留意点					
8	〔作文1〕			作文「保育者を目指して」					
9	〔新聞記事を読む1〕			新聞記事の読み比べ					
10				記事を書く					
11	文章表現（応用編）			実習日誌の書き方					
12									
13				実習礼状など手紙・ハガキの書き方					
14									
15									
16	〔小論文1〕			小論文の書き方					
17				小論文「子ども時代を振り返って」					
18				小論文の推敲					
19									
20	〔履歴書〕			履歴書の書き方					
21									
22									
23									
24	〔作文2〕			作文「2回の実習を終えて」					
25									
26	〔新聞記事を読む2〕			社説を読む					
27									
28	〔小論文2〕			テーマに沿って書く					
29									
30	学習のまとめ								
テキスト		田上貞一郎著：『保育者になるための国語表現』（萌文書林）							
参考文献									

科目名	文 学	必修・選択	選択必修	授業形態	講 義	評価の方法	試験	40%
							レポート	-
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	20%
担当者	大原 かおり	単位数	2	学年・期間	1 年 前 期			
授業のねらいと概要		「よい絵本」とはどのようなものかを様々な視点から考察する。						
到達目標		・子どもの発達段階に即した絵本選びのポイントを押さえる。 ・「よい絵本」を選ぶ目を養う。						
学習者への期待（含準備学習）		図書館等を利用して様々な絵本に触れ、自分なりの見解を持って授業に臨んでほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション							
2	絵本のよさ		絵本のよさについて					
3	子どもの発達と絵本		子どもと絵本のかかわり：第１段階〈再認識の時代〉					
4			〃 ：第２段階〈本の内容に気づく時代〉					
5			〃 ：第３段階〈想像の時代、本の世界に入る時代〉					
6			〃 ：第４段階〈知識吸収から共感する時代〉					
7			〃 ：第５段階〈思索する時代〉					
8	絵本選びのポイント		以下の要素に注目して、実際に絵本を検証する。 ①色 ②ていねいな絵 ③部分と全体の絵 ④文章					
9			⑤物語と絵の調和 ⑥意味と時間 ⑦連続性と意外性					
10			⑧見せ場 ⑨作家の主張 ⑩主人公の年齢 ⑪魅力的な登場人物					
11			⑫登場するおとなたちの魅力 ⑬登場人物の擬人化とその表情					
			⑭本の年齢 ⑮赤ちゃん絵本 ⑯うんち、おしっこには要注意					
			⑰昔ばなし絵本 ⑱仕掛け絵本 ⑲美術書のような絵本					
			⑳月刊保育絵本					
12	よい絵本とは		(グループ活動) 研究発表準備					
13			①「よい絵本とは」で取り上げられている絵本を図書館で探す。					
14			②①の本の中から５冊ずつ選び、さまざまな角度から研究する。					
			③発表原稿を書く。					
			④グループ毎に発表する。					
			⑤グループで選んだ本の中から１～２冊読み聞かせに挑戦する。					
15	まとめ							
テキスト								
参考文献								

科目名	子ども文化	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							レポート	20%
							提出課題	60%
							授業態度・意欲	20%
担当者	安藤 節子	単位数	2	学年・期間	1 前期			
授業のねらいと概要		保育における児童文化について学ぶ。 保育の中で生かすことのできる内容を実践する。						
到達目標		・保育において使われる様々な児童文化財を活用した、実践のあり方を具体的に学ぶ。 ・幼児の前での実践の経験をする。						
学習者への期待 (含準備学習)		現代の乳幼児を取り巻く、様々な児童文化への関心をもってほしい。 文化財の実践では、積極的に取り組み、自分なりの表現の仕方を身につけてほしい。						
回	授業計画		授業内容					
1	保育における絵本について		大型絵本に親しむ					
2	同上		私の好きな絵本について					
3	絵本の与え方		実践をしてみる					
4	紙芝居について		日本の昔話					
5	紙芝居		生活紙芝居・行事の紙芝居					
6	自然物で遊ぶ		身近な植物・自然物を使ってのお話作り					
7	紙類を使って		紙コップ、画用紙 などを使ってのお話作り					
8	同上		紙袋人形の制作と実践					
9	布を使って		制作と実践					
10	伝承遊びについて		意義と実践					
11	伝承遊びについて		実践					
12	乳幼児のための作品と実践		グループ制作					
13	同上		同上					
14	同上		同上					
15	同上		発表					
テキスト		『保育用語辞典』						
参考文献								

科目名	ボランティア活動	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	60%
							レポート	10%
							提出課題	10%
							授業態度・意欲	20%
担当者	国枝 幸子	単位数	2	学年・期間	1 年期 前 期			
授業のねらいと概要		ボランティアの意義、基本、活動のルール、実際や活動上の課題などを知り、市民として、また、保育者として、よりよく社会の中で協同することを学ぶ。						
到達目標		・ボランティアについての意義や基本的ルールを知り、理解する。 ・ボランティアの実際上の課題や種類、活動を知り、興味を持つ。 ・広く協力し合う心を持ち、喜んでボランティアを行う意欲を持つ。						
学習者への期待（含準備学習）		・構内、また地域の中で行うボランティアなど身近な活動に興味をもって学ぶこと。 ・国際的なボランティアまで広い心で互いに協力し合う心を培うこと。 ・ボランティア活動の準備、振り返りなども考察を深めながら参加すること。						
回	授業計画			授 業 内 容				
1	オリエンテーション			ボランティアとは何か。被災地支援とボランティア活動				
2	ボランティア活動の原理 1			自発性、非営利性、ボランティアの事例				
3	ボランティア活動の原理 2			社会性、創造性、専門職とボランティア				
4	ボランティア活動の現状と課題			新しい市民社会、地縁型とテーマ型組織、社会貢献活動				
5	N P O と N G O			特定非営利活動促進法、非政府組織、発展途上国の支援				
6	ボランティア活動の実際			幼稚園におけるボランティア				
7	国際ボランティア活動			海外協力、フェアトレード、国際ボランティア組織				
8	子育て支援とボランティア			幼稚園、保育所、児童館				
9	福祉におけるボランティア			高齢者、障がい者、ホームレス支援、相談と準備				
10	介護施設におけるボランティア			介護施設訪問				
11	環境問題とボランティア			地球温暖化防止、合成洗剤、原発、自然回復				
12	災害とボランティア			歴史、準備と災害時のボランティア				
13	スタッフの教育、養成			リーダーシップ、コーディネーター、キーパーソン				
14	テスト課題			復習と課題				
15	テスト返しと振り返り			まとめとボランティア活動				
テキスト		柴田謙治他：『ボランティア論』（みらい）						
参考文献		雨宮孝子・小谷直道・和田敏明編著：『福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO』（中央法規）						

科目名	子どもと自然	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	30%
							レポート	－
担当者	永井 博敏	単位数	2	学年・期間	1 前期		提出課題	30%
							授業態度・意欲	20%
							プレゼンテーション	20%
授業のねらいと概要		・古くから日本人の生活が自然と深くかかわり合っていることに関心を持ち、進んで身近な自然環境に触れ合う活動を行うようになることをめざす。 ・子どもの興味・関心を引く身近な動植物や科学事象についての基本的な知識をもち、探索活動などを支えることのできる資質を持った保育者となれるよう、学びを深める。						
到達目標		・身近な自然や事象及び人間の生活とのかかわりに関する基礎的な事柄が理解できる。 ・身近な科学事象の原理を調べたり、身近な材料を使ったおもちゃを製作することができる。 ・大学近辺の公園など身近な自然に親しみ、進んでかかわろうとする意欲や好奇心をもつ。						
学習者への期待（含準備学習）		子どもたちは自然大好き、動物大好き。溢れる子どもの好奇心を支えることができるよう、普段から必要なことに興味・関心を寄せ、実践的な活動力を身に付けることを期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		○授業の全体計画と修得を期待する能力や態度についての説明					
2	自然の営みと人間の生活－1		○映像資料（里山の自然と人間の共生）をもとに「古来より日本人の生活が四季おりおりの自然の営みと深くかかわってきた。」ことを知り、所見をまとめる。（映像資料）					
3	自然の営みと人間の生活－2							
4	秋田の自然と伝統職人の技		○八郎潟周辺の自然の特徴と男鹿石の石工、潟魚の佃煮職人、矢竹作りの御矢師など伝統職人の技に触れる。（映像資料）					
5	身近な植物の基礎知識－春の1		○道ばたや公園、野原に見られる草花のあらましを知り、身近な植物に関する知識・理解を深める。					
6	身近な植物の基礎知識－春の2		○大学周辺のフィールドワークによって、公園や道ばたの草花の特徴を理解する。					
7	身近に見られる樹木の基礎知識		○街路樹、短大構内や公園の樹木について基礎的な知識を理解する。					
8	大森山動物園の動物たち		○大森山動物園の飼育動物の特徴や飼育についての知識を理解する					
9	男鹿水族館 G A O の生きものたち		○男鹿水族館の魚やその他の動物に関する基本的な知識を理解する。					
10	「子どもの大好きな生きもの図鑑」を作ろう－1		○子どもたちの大好きな“小動物・昆虫など”について、多様な情報をもとに「生きもの図鑑」を作る。					
11	「子どもの大好きな生きもの図鑑」を作ろう－2		・生きものの特徴 ・採集や飼育のしかた など					
12	「生きもの図鑑の発表会」		○「生きもの図鑑」について発表し合う。					
13	身近な植物の基礎知識－夏		○近隣のフィールドワークによって、季節の違いによる公園の草花の変化を調べる。					
14	日常生活にみる科学的事象（浮沈子のしくみを探ろう）		○浮沈子を作って、圧力や浮力についての知識を得ると共に身近な材料を使ったおもちゃの作製をする。					
15	日常生活にみる科学的事象（動くおもちゃを作ろう）		○「動くおもちゃ」の原理に関する理解を深めるとともに、身近な材料を使ってさまざまなおもちゃを作製する。					
16	野外活動の楽しさとリスク管理		○幼児期における「自然探索や遠足」などの野外活動の有効性とリスク管理について必要な知識を獲得する。					
テキスト		自作プリントを使用（A4フラットファイル必要）						
参考文献		特定せず。（その都度、関連する書籍等を紹介する）						

科目名	健康・スポーツ論		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
								レポート	30%
								提出課題	10%
								授業態度・意欲	60%
担当者	内藤 裕子		単位数	1	学年・期間	1 年 後 期			
授業の ねらいと概要		健康な生活について理解し学習する。 健康作りに興味をもつ。 心身を守る健康の知識を身につける。							
到達目標		・健康とスポーツを多角的にとらえ、その重要性を理解する。 ・スポーツの意義を理解し、これからの生活にどう取り入れるべきか考える。 ・健康の知識を習得し実践する。							
学習者への期待 (含準備学習)		健康を維持するためには何が必要なのかを考え理解できることを望む。 自分の心身の状態を再認識し、前向きに生きていく術を探せる事を望む。 生涯を通し、スポーツを楽しめる方法を習得することを期待したい。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	オリエンテーション			これからの授業内容の説明					
2	健康についての理解			健康の定義					
3	健康についての理解			健康な生活について					
4	健康な生活について			生活リズムについて					
5	健康な生活について			睡眠・運動・食事の重要性について					
6	健康な生活について			運動・スポーツの重要性について					
7	健康な生活について			食事の重要性について					
8	食について			ダイエットについて					
9	食について			基礎代謝と食の関係					
10	体力についての理解			体力の意義					
11	運動と体力の関係			体力作りの方法について					
12	心と体力の関係			前向きな生活をおくるための方法について探る					
13	スポーツについて			スポーツの語源・成り立ちについて					
14	スポーツについて			スポーツの必要性・生涯スポーツについて					
15	まとめ			質疑応答					
テキスト									
参考文献									

科目名	体育実技	必修・選択	必修	授業形態	(実 技)	評価の方法	試験	－
							レポート	－
							提出課題	20%
							授業態度・意欲	80%
担当者	内藤 裕子	単位数	1	学年・期間	1 年 前 期			
授業のねらいと概要		生涯にわたって、スポーツやレクリエーションに親しめる能力を身につける。 ダンス・バレー・バスケット・卓球・バドミントンなどを通して、集団や個人で楽しくスポーツを行う技術を体得する。						
到達目標		・スポーツの重要性や意義を理解する。 ・仲間と関わりを持つことで社会性を身につける。 ・積極的に、スポーツにかかわりたいという気持ちを持つ。						
学習者への期待 (含準備学習)		スポーツを通して、仲間と協調することで、コミュニケーション能力や社会性が育つことを望む。 生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康を維持したいという気持ちを持たせたい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		これからの授業の内容の説明					
2	体力作りのための運動		楽しくできるウォーミングアップの紹介					
3	体力作りのための運動		ストレッチ運動、集団あそびなど					
4	学外研修パフォーマンスの創作		学外研修の意義や内容を説明・昨年までの作品の紹介					
5	学外研修パフォーマンスの創作		創作ダンスについての学習					
6	学外研修パフォーマンスの創作		実際にダンスステップを経験し振り付けを考える					
7	学外研修パフォーマンスの創作		細かな部分の修正について考察する					
8	学外研修パフォーマンスの創作		発表・動きについての話し合い					
9	ラジオ体操		ラジオ体操の意義・歴史などを知り、体験してみる。					
10	球技を楽しむ		バスケット・卓球・バレー等					
11	球技を楽しむ		バスケット・卓球・バレー等					
12	球技を楽しむ		バドミントン・ドッチボール等					
13	球技を楽しむ		バドミントン・ドッチボール等					
14	レクリエーションを楽しむ		集団で運動あそびを経験し学ぶ					
15	まとめ		スポーツの重要性について再確認する					
テキスト								
参考文献								

科目名	情報処理 (初心者)	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	－
担当者	杉館 俊彦	単位数	2	学年・期間	1 年 通 年		レポート	－
							提出課題	80%
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要		ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用まで実習を通して学ぶ。						
到達目標		課題を通して卒業後に実社会に入った時のワーク時間の使い方、個人データの保護の重要性を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		現代社会の必須技能である「読み・書き・パソコン」を基礎から学び、実社会に出てから仕事に直結する技能を確実に身につける						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	ガイダンス		本学パソコン室の機器の使用方法を説明。					
2	キーボードとマウスからの入力		データ入力の仕組みを理解し、マウス操作に習熟する。「ペイント」ソフトを使い、イラストの作成・データの保管・読み込みを取得する。					
3								
4								
5	ワープロソフトの機能と操作を学ぶ		1)「園おたより」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ。 2) Wordのオートシェープ機能を活用して簡単な、イラストを短時間で作成できる技法を学ぶ。 3) イラストの入った「園おたより」を作成し、印刷まで学ぶ。 4) クリップアートとワードアートの技法を習得する。 5) 年賀状の作成を通して、はがき作成を理解する。					
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14	表計算ソフトの機能と操作を学ぶ		1)「クラス表」の作成を通して簡単な表作成技術を学ぶ。 2)「年間カレンダー」の作成を通して、オートフィル機能・シートの複写技術を習得する。 3)「児童台帳」の作成を通じて、入力規則を習得し卒園・入園・進級の操作技法を習熟する。 4)「身体計測記録台帳」の作成を通して、グラフの作成方法を習得する。					
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23	メールソフトの機能と操作を学ぶ		アウトルックエクスプレスの基本操作を習得する。添付ファイルの開き方、添付の仕方を理解する。					
24								
25								
26	プレゼンテーションソフトの活用 簡単なホームページを作成し、情報共有を体験する		プレゼンテーションソフトを活用した発表の準備を行う。アニメーションの使い方を理解する。 ホームページビルダーを使用しホームページの仕組みとリンクを理解する。					
27								
28								
29								
30								
テキスト		阿部正平・阿部和子・ホソノヨーコ『保育者のためのパソコン講座』(萌文書林)						
参考文献								

科目名	情報処理 (経験者)	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
担当者	杉舘 俊彦	単位数	2	学年・期間	1 年 通 年		レポート	—
							提出課題	80%
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要		ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用まで実習を通して学ぶ。						
到達目標		課題を通して卒業後に実社会に入った時のワーク時間の使い方、個人データの保護の重要性を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		現代社会の必須技能である「読み・書き・パソコン」を基礎から学び、実社会に出てから仕事に直結する技能を確実に身につける						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	ガイダンス		本学パソコン室の機器の使用方法を説明。					
2	キーボードとマウスからの入力		データ入力の仕組みを理解し、マウス操作に習熟する。「ペイント」ソフトを使い、イラストの作成・データの保管・読み込みを取得する。					
3								
4								
5	ワープロソフトの機能と操作を学ぶ		1)「園おたより」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ。 2) Wordのオートシェープ機能を活用して簡単な、イラストを短時間で作成できる技法を学ぶ。 3) イラストの入った「園おたより」を作成し、印刷まで学ぶ。 4) クリップアートとワードアートの技法を習得する。 5) 年賀状の作成を通して、はがき作成を理解する。					
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14	表計算ソフトの機能と操作を学ぶ		1)「クラス表」の作成を通して簡単な表作成技術を学ぶ。 2)「年間カレンダー」の作成を通して、オートフィル機能・シートの複写技術を習得する。 3)「児童台帳」の作成を通じて、入力規則を習得し卒園・入園・進級の操作技法を習熟する。 4)「身体計測記録台帳」の作成を通して、グラフの作成方法を習得する。					
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23	メールソフトの機能と操作を学ぶ		アウトルックエクスプレスの基本操作を習得する。添付ファイルの開き方、添付の仕方を理解する。					
24								
25								
26	プレゼンテーションソフトの活用 簡単なホームページを作成し、情報共有を体験する		プレゼンテーションソフトを活用した発表の準備を行う。アニメーションの使い方を理解する。 ホームページビルダーを使用しホームページの仕組みとリンクを理解する。					
27								
28								
29								
30								
テキスト		阿部正平・阿部和子・ホソノヨーコ『保育者のためのパソコン講座』(萌文書林)						
参考文献		なし						

科目名	音楽の理論と合奏	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
							レポート	—
							提出課題	—
							授業態度・意欲	60%
担当者	東海林 美代子	単位数	1	学年・期間	1 年 通 年		実技発表・演習テスト	40%
授業の ねらいと概要		音楽の基礎理論を学ぶことにより、楽譜がよくわかるようにさせる。 子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、合奏の喜びを感じられるようにする。						
到達目標		・音楽の基礎理論を理解する。(音符・休符、音程、調、音階、コードネーム等) ・音階が弾け、書ける。 ・簡易楽器の奏法を習得し、合奏を楽しむ。						
学習者への期待 (含準備学習)		楽譜がわかると表現の世界が広がります。保育の中で工夫しながら音楽を取り入れ、子どもにも合奏を通じて表現する楽しさを与えられるよう、積極的に授業に臨んでください。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	授業内容について		保育における音楽と楽器、リズム遊び					
2	楽譜について		楽譜に書かれている要素の理解					
3			音符と休符					
4			拍と拍子 小節					
5			音名と記号					
6	音楽用語		様々な音楽用語の理解					
7	音程		全音と半音					
8			いろいろな音程					
9								
10			完全・長・短・増・減音程について図を使って理解する					
11	音階		いろいろな音階					
12			調・調号・主音の理解					
13								
14			音階が弾け、書ける					
15	音程と音階のまとめ							
16	楽器について		幼児が親しみやすい楽器とその種類					
17			打楽器の特徴と奏法					
18	小曲の合奏Ⅰ		木琴・鉄琴・打楽器を使った合奏					
19			「おどろう楽しいポーレチケ」「わたしの気持ち」					
20								
21								
22								
23	小曲の合奏Ⅱ		トーンチャイム・ミュージックベルを中心とした合奏					
24			「手をたたきましょう」「大きな古時計」					
25								
26								
27								
28	和音とコードネーム		主要三和音について					
29			コードネーム付きの旋律譜に伴奏をつける					
30	まとめ							
テキスト		なし						
		※五線ノートおよび鍵盤ハーモニカ唄口を各自準備すること。						
参考文献		『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『Piano Lesson 60 時間』（音楽教育研究協会）						

科目名	声楽Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	30%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	70%
担当者	櫻庭 優佳	単位数	1	学年・期間	1 年 通 年			
授業のねらいと概要		歌唱の基礎を学ぶことで幼児教育者に必要な歌唱の基礎技能を身につける。様々な音楽体験を積み、音楽への理解を深める。						
到達目標		リズム・メロディー・ハーモニーを理解し、歌唱することができる。年間行事に関する歌を歌うことができる。						
学習者への期待（含準備学習）		日頃から様々な音楽に興味を持ち、聴く耳と感じる心を育てましょう。のびやかな声、よい表情で歌うように心がけましょう。譜読み・授業時間以外での練習など、積極的な姿勢を期待します。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	授業のオリエンテーション		授業内容の説明 クラスの仲間と音楽を通して触れ合う					
2	Solfège（歌唱の基礎）		リズム打ち（音符の長さや拍子を理解する）					
3			視唱（音程を理解する。2～6度音程）					
4			少人数グループで課題に取り組む					
5	学校行事の曲を歌う①		聖心のミサに向けて（ミサ曲と聖歌）					
6								
7	季節の子どものうたを歌う①		歌唱における日本語の発音について考える					
8			グループ毎に子どもの歌の発表をする					
9								
10	アンサンブルを楽しむ		アルカデルト作曲「Ave Maria」に取り組む					
11	(ハーモニー作り)		少人数アンサンブルで2声の響きを感じる					
12								
13			アンサンブル・コンテストに向けて、クラス合唱に取り組む					
14			・課題曲は身体表現も加えてパフォーマンスする					
15			・自由曲は各クラスのそれぞれの響きを充実させて合唱する					
16								
17								
18								
19								
20								
21	季節の子どものうたを歌う②		実習に向けて、子どもと楽しめる歌に取り組む					
22								
23	学校行事の曲を歌う②		クリスマス・ミサに向けて（ミサ曲と聖歌）					
24								
25	季節の子どものうたを歌う③		音楽に合わせ、楽器や身体表現を加える					
26								
27	学校行事の曲を歌う③		卒業感謝のミサに向けて（ミサ曲と聖歌）					
28			卒業式に向けて（式歌を歌う）					
29								
30	声楽Ⅰのまとめ							
テキスト		聖歌集『神をたたえて』（聖園学園短期大学） 神原雅之、鈴木恵津子監修・編著：『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） ※その他 随時プリント配布						
参考文献								

科目名	器楽Ⅰ（ピアノ）	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	50%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	50%
担当者	東海林 美代子 他 8 名	単位数	1	学年・期間	1 年 通 年			
授業の ねらいと概要		幼児教育者として必要なピアノの基礎的テクニックを習得し、表現力を養う。 簡易伴奏による子どもの歌の弾き歌いができるようにさせる。						
到達目標		・幼児教育者として必要なピアノの基礎的テクニックを習得する。 ・音楽に対する感性を磨き、表現力を高める。 ・子どもの歌を簡易伴奏によって弾き歌いができる。						
学習者への期待 （含準備学習）		・様々な楽曲・練習曲を通して、より高い音楽表現ができるようになることを期待します。 ・毎回課題を十分に練習し授業に臨んでください。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	事前課題の確認		事前課題への取り組みを見極める					
2	1. 個人の進度・能力に応じた練習曲と 楽曲を課し、レッスン形式で行う		・レッスンは1時間に5名程度					
・レッスンの過程では、演奏及び練習のポイントについて、奏法や 運指法等具体的に指導する								
6	2. ピアノ経験者には、グループレッ スンにより、より高い音楽表現のでき る奏法を習得させる		・グループレッスは4名程度					
・共通テキストの他ブルグミュラー「25の練習曲」「18の練習曲」 ギロック「こどものためのアルバム」等をテキストとして使用する								
10	チャペルコンサート		聖堂にて音楽担当者によるコンサート「音楽と祈りの集い」（独唱、三 重唱、オルガン独奏など）を鑑賞し、聖心のミサへむけて気持ちを高め る					
11								
12								
13								
14								
15	前期実技試験		進度に合った曲を指導者と話し合って選曲し、1曲を演奏する					
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23	後期実技試験（弾き歌い）に向けて		簡易伴奏による弾き歌いの課題（子どもの歌）を3曲以上練習する					
24								
25								
26								
27								
28								
29	後期実技試験（弾き歌い）		1曲を指導者と話し合って選曲し、演奏する					
30	まとめ		次年度へ向けての課題を確認する					
テキスト		『Piano Lesson 60 時間』（音楽教育研究協会） ※上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する。						
参考文献		『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）						

科目名	幼児造形Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
							レポート	—
							提出課題	50%
							授業態度・意欲	50%
担当者	小笠原 京子	単位数	1	学年・期間	1 年期 前 期			
授業の ねらいと概要		・つくりだす喜びや楽しさを味わい、造形的な創造性を培うとともに、素材や技法など造形表現に関する基礎的な知識や技能を習得する。 ・保育としての環境構成の大切さや幼児の造形活動についての関心を高める。 ・多様な描画材料の経験や動くおもちゃのしくみ、紙工作の基礎など実技を中心とした制作活動となる。						
到達目標		・自からの発想や構想で制作する楽しさを味わう。 ・色彩の基本原理や配色の調和、基本形の作り方など、色や形の基本を理解することができる。 ・造形材料・素材のもつ性質や特徴、技法などを理解し、制作することができる。 ・子どもの絵の特徴についての理解に努め、子どもの絵や作品に共感できる。						
学習者への期待 （含準備学習）		制作をとおして、幼児期における表現のもつ意味を感じ取りながら、造形の基礎的な力をつけることを望みます。また全体の進度に合わせながらの丁寧な作業を期待します。 制作活動が中心となるので、スケッチブック、はさみ、のりなどは各自常に準備してください。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	ガイダンス 保育としての造形活動		授業内容を見通し、各自準備するものなど確認する。 幼児の造形表現について知る。					
2	色彩の基礎		色の三要素、三原色、有彩色、無彩色などに触れ、水彩絵の具を使って三原色から色相環を制作する。					
3	描画素材の体験と 表現活動Ⅰ		描画表現のさまざまな技法を体験する。 クレヨン、パス、パステル、水彩絵の具の特色					
4	描画素材の体験と 表現活動Ⅱ		スクラッチ、フロッタージュ、ステンシル、デカルコマニーにじみ、ぼかし、パチックなどの技法について知り、制作する。					
5	見て描く活動		季節の草花を描く。					
6	動くおもちゃ		いくつかの＜動くおもちゃのしくみ＞について知る。					
7	メリーゴーランドの制作Ⅰ		自分の構想で、素材を集め、回るものを作り飾る。					
8	メリーゴーランドの制作Ⅱ		自然素材、紙、毛糸、モール、紙粘土など					
9	メリーゴーランドの制作Ⅲ							
10	ペーパークラフト		さまざまな紙のもつ特質を知り、ペーパークラフトの基本を学ぶ。 五角形、六角形の基本形の作り方を学ぶ。					
11	飛び出すカードⅠ		切る、折るなどの技法を使い、飛び出すしくみを理解する。					
12	飛び出すカードⅡ		テーマを選択し、プレゼントするカードを制作する。					
13	紙版画の制作		凸版、凹版の実際を知り、紙、布を使って、作品を制作する。					
14	幼児の絵について		子どもの発達段階と子どもの絵の特徴についての理解を深める。					
15	まとめ		幼児の絵を鑑賞しながら、よみとりを検討する。 幼児の表現活動の指導について知る。					
テキスト								
参考文献								

科目名	福祉基礎理論		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
担当者	藤原 法生		単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	－
								提出課題	－
								授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要		社会福祉の基本的理念や制度について学びながら、現代の福祉問題やその対象者について考える。							
到達目標		・社会福祉の基本的理念を理解する。 ・普段の生活と社会福祉の関連性について理解する。 ・各種制度や社会資源に関する知識を身につけ、必要に応じて活用することができる。							
学習者への期待（含準備学習）		福祉問題とその対象者について、偏見のない正しい理解をしてほしい。 新聞記事やニュースなどをとおして、社会福祉に関心をもってほしい。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	オリエンテーション			福祉とは何か、社会福祉の理念、社会福祉と児童家庭福祉					
2	現代社会の理解			少子高齢社会、家族と地域の変化					
3	社会福祉の歴史			日本と海外の社会福祉の歴史					
4	社会福祉の行政と財政			国と地方の行財政					
5	社会福祉の制度と実施体系（1）			公的扶助（公的扶助と社会保険、生活保護の目的・原理・原則）					
6	社会福祉の制度と実施体系（2）			公的扶助（生活保護の種類と内容）					
7	社会福祉の制度と実施体系（3）			公的扶助（生活保護の実施体制、保護の動向）					
8	社会福祉の制度と実施体系（4）			高齢者福祉（高齢者の理解、高齢者福祉の理念）					
9	社会福祉の制度と実施体系（5）			高齢者福祉（高齢社会対策、法体系）					
10	社会福祉の制度と実施体系（6）			高齢者福祉（介護保険制度）					
11	社会福祉の制度と実施体系（7）			障がい者福祉（障がいの理解、障がい者福祉の理念）					
12	社会福祉の制度と実施体系（8）			障がい者福祉（障がい者福祉対策、法体系）					
13	社会福祉の制度と実施体系（9）			障がい者福祉（障がい者の自立支援）					
14	社会福祉の制度と実施体系（10）			地域福祉（地域福祉の理念、コミュニティ）					
15	社会福祉の制度と実施体系（11）			地域福祉（住民参加、地域福祉の将来展望）					
テキスト		山縣文治・岡田忠克編：『よくわかる社会福祉』（ミネルヴァ書房）							
参考文献		なし							

科目名	児童福祉と家庭	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	20%
担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	1 前期			
授業のねらいと概要		子ども家庭福祉の概要と福祉の実現について学ぶ。						
到達目標		・子どもの権利と子ども家庭福祉の基本的理念を理解する。 ・子ども家庭福祉の現状、課題、取り組みについて理解する。 ・各種制度や社会資源に関する知識を身につけ、必要に応じて活用することができる。						
学習者への期待（含準備学習）		社会福祉の一分野である子ども家庭福祉を、身近なテーマとしてとらえて学習してほしい。 新聞記事やニュースなどをとおして、子ども家庭福祉に関心をもってほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		子ども家庭福祉の理念と対象、福祉と保育					
2	子ども家庭福祉の現状（1）		少子化社会、子どもが育つ環境					
3	子ども家庭福祉の現状（2）		子育ての課題と支援					
4	子どもの権利保障		子どもの権利、権利宣言、権利条約					
5	子ども家庭福祉の展開		戦前戦後の児童福祉、現代の児童福祉					
6	子ども家庭福祉の制度と実施体制（1）		法体系、国と地方の行政機関、専門行政機関					
7	子ども家庭福祉の制度と実施体制（2）		児童福祉施設の体系と運営、利用形態					
8	子ども家庭福祉の制度と実施体制（3）		子ども家庭福祉のマンパワー					
9	子どもと家庭に対する支援（1）		施設と支援の概要（目的・対象者・サービス内容）					
10	子どもと家庭に対する支援（2）		施設と支援の概要（目的・対象者・サービス内容）					
11	子どもと家庭に対する支援（3）		施設と支援の概要（目的・対象者・サービス内容）					
12	子どもと家庭に対する支援（4）		施設と支援の概要（目的・対象者・サービス内容）					
13	子どもと家庭に対する支援（5）		施設と支援の概要（目的・対象者・サービス内容）					
14	地域における子ども家庭福祉（1）		地域の環境と課題					
15	地域における子ども家庭福祉（2）		住民主体の支援体制と活動					
テキスト		山縣文治編：『よくわかる子ども家庭福祉』（ミネルヴァ書房）						
参考文献		なし						

科目名	子どもの保健ⅠA	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	100%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	－
担当者	高橋 美砂子	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期			
授業のねらいと概要		小児の成長発達・生理を理解し、病気や不慮の事故に対して初期対応できるように、知識を習得する。						
到達目標		・小児の成長発達・生理を理解し、健康的な生活を支援できる技能を習得する。 ・小児の病気や不慮の事故を理解し、予防・対処できる知識を身につける。						
学習者への期待（含準備学習）		現代の子どもの生活背景と子どもの健康問題に関心を向ける。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	わが国の小児と家族の諸統計 小児に関する施策		年少人口、合計特殊出生率、出生数、出生率、乳児死亡率 少子化対策、健やか親子21					
2	小児期各期の健康問題 生命の誕生、年齢別死亡順位		小児期の分類と健康問題 生命の誕生、小児の年齢別死亡順位、10代の喫煙の影響、SIDS					
3	小児の成長発達 脳と感覚器の発達		成長発達の原則、身長、体重、成長評価 新生児の特徴、脳と脳神経の発達（DVD）、感覚器の発達					
4	小児の生理 呼吸、循環、血圧		呼吸、胎児循環、胸囲の発達、脈拍、血圧					
5	新生児の血液・免疫 母乳		新生児の血液免疫の特徴 自律神経、母乳の意義、卒乳					
6	小児の消化機能の特徴 水分代謝		小児の腹部の特徴、吐乳、溢乳、胎便 小児の水分の割合、1日の必要な水分量					
7	子どもの体温、低体温の問題 小児の睡眠		子どもの体温の特徴、低体温の問題と改善 小児の睡眠の特徴と意義					
8	腎臓の機能、小児の排泄 乳歯と虫歯予防		腎臓のはたらき、夜尿症の生活指導 乳歯の萌出時期、虫歯予防の生活習慣					
9	人間性の発達課題 メディアと健康問題		エリクソンの小児の発達課題と接し方の基本 メディアと小児の健康問題					
10	子どもの病気の理解 発熱と発疹の病気		子どもの病気の理解とコミュニケーション 発熱と発疹の主な病気					
11	免疫機能と予防接種 予防接種対象疾患		免疫機能、予防接種ワクチンと適応 予防接種対象疾患					
12	アレルギー性疾患 川崎病		アトピー性皮膚炎、小児のスキンケア、小児喘息 川崎病					
13	先天奇形・代謝異常 障害児の成長発達		先天奇形・代謝異常 障害児の生活支援（DVD）					
14	小児の主な病気 消化器、呼吸器、血液		肥厚性幽門狭窄症、腸重積、虫垂炎、周期性嘔吐症、感染性胃腸炎、 下痢・嘔吐時の対処、扁桃炎、仮性ク룹、貧血、白血病					
15	小児の主な病気 循環器、内分泌、腎臓 事故対策		先天性心疾患、小児糖尿病、糸球体腎炎 小児の不慮の事故、事故対策					
テキスト		佐藤益子：『子どもの保健Ⅰ』（ななみ書房）						
参考文献		服部祥子：『生涯人間発達論』（医学書院） 岡堂哲雄：『小児ケアのための発達臨床心理』（へるす出版）						

科目名	子どもの保健Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	80%
							レポート	10%
							提出課題	－
							授業態度・意欲	10%
担当者	佐藤 ヨシ	単位数	1	学年・期間	1 年期 前 期			
授業のねらいと概要		保育する子どもの成長・発達が日々の生活、環境と大きく関わっていることを理解し、子どもの健全な心身の育成を支援するための保健活動における知識および技術、態度を学ぶ。						
到達目標		・子どもの保健活動を理解し、子どもに愛情・関心を持つことができる。 ・子どもの健全な育成を支援するための養護に関する知識・技術を理解し実践できる。 ・保育の場における感染予防や事故防止について具体的に考え対処できる。						
学習者への期待（含準備学習）		子どもの成長発達の基礎的理解に基づき、学生一人一人が育児技術を確実に体験し正しい育児技術を身につけること。子どもへの関心を高め、学んだ保健・養護技術を保育実習および学生自身の子育てに活かす。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	子どもの保健とは		ガイダンス 赤ちゃんの理解（VTR赤ちゃんからのメッセージ）					
2	保健活動の計画と評価		年間保育計画 子どもの健康状態の観察、発育指数					
3	子どもの発育・発達の評価		身体計測（身長・体重・頭囲の計測など） 運動機能の発達					
4	子どもの保健と環境 子どもの生活習慣と心身の健康		睡眠、食習慣、排泄習慣、清潔習慣、衣服と健康 精神発達の評価法					
5	乳幼児の養護 1		乳児の抱き方・背負い方、着脱 おむつ交換					
6	乳幼児の養護 2		母乳、人工栄養、調乳・授乳方法など					
7	乳幼児の養護 3		身体の清潔（沐浴） 輝ける子に育てるために（ほめ方、しかり方など）					
8	子どもの疾病と適切な対応 感染症の予防と対策		感染の仕方、予防接種					
9	特別な配慮を必要とする 子どもへの対応		熱性けいれん、てんかん、アレルギー性疾患など					
10	事故防止と健康管理・安全管理		事故防止および健康・安全管理への組織的取り組み 災害への備えと危機管理					
11	けがや急な病気への対応		保育所等での救急法アルゴリズム（手順） 乳幼児の気道異物の除去方法					
12	子どもに起きやすい事故の応急処置		ショック、止血法、頭部外傷、熱傷、熱中症などの応急処置					
13	保育における看護		症状の観察および対処方法（発熱、嘔吐、発疹、けいれんなど） 薬法、薬の与え方					
14	心とからだの健康問題と地域保健活動		障害児の対応と養育（発達障害、注意欠陥／多動性障害など） 地域における育児支援の現状					
15	子どもの救命救急（救命講習会）		心肺蘇生法・AEDの実技 （秋田市消防本部救急隊救急救命士指導）					
テキスト		佐藤益子編：『子どもの保健Ⅱ』（みなみ書房） 明橋大二：『子育てハッピーアドバイス』（1万年堂出版）						
参考文献		佐藤益子編：『子どもの保健Ⅰ』（みなみ書房） 山本恵子監修：『写真でわかる小児看護技術』（インターメディカ） 鴨下重彦・柳澤正義監修：『子供の病気の地図帳』（講談社）						

科目名	小児栄養		必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	80%
担当者	佐々木 三津子		単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	－
								提出課題	－
								授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要		小児栄養は身体発育や精神発達という特徴があることを知る。また、食習慣及び生活習慣の基礎が形成される大切な時期であることを理解する。各期（乳児期・、幼児期・学童・思春期）の栄養と食生活の特徴を学ぶ。							
到達目標		・小児期は栄養状態の適否が発育、発達に影響することを理解する。 ・成人期と異なる栄養と食生活の特徴を理解する。 ・調理実習を通じ適切なコミュニケーション、作業効率を考えた手順等を習得する。							
学習者への期待（含準備学習）		栄養については人の一生、ライフサイクルにそって広く関心を持ってほしい。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	授業内容、進め方 総論 子どもの健康と食生活			授業内容、進め方 小児期における栄養の重要性					
2	栄養生理			栄養の定義、栄養素について					
3	食事摂取基準 摂食・消化機能の発達 栄養状態の評価			日本人の食事摂取基準（2010年版）、小児の食物摂取機序 栄養評価について					
4	献立・調理の基本			合理的な食生活をするための献立・調理について					
5	乳児期の心身の発達と栄養			授乳栄養、離乳栄養について					
6	調理実習（1）			離乳期の献立					
7	幼児期の心身の発達と栄養			幼児期栄養の特徴と必要性 栄養生理・栄養上の注意等について					
8	調理実習（2）			幼児期の献立					
9	学童・思春期の心身の発達と栄養			学童・思春期における心身の発達に対して払うべき栄養上の配慮 摂取上の問題点等について					
10	食育			食育の基本 小児期における食育					
11	生涯発達と子どもの栄養 家庭における食事と栄養			生涯発達について 家庭の食事と栄養の特徴					
12	食品と食の安全			食品の選び方 食の安全性					
13	施設における食事と栄養 障害のある子どもの栄養			集団における給食について 障害のある子どもの摂食と栄養について					
14	疾病および体調不良の子どもへの対応			疾病および体調不良時の栄養管理について					
15	授業のまとめ								
テキスト		赤塚順一ほか：『子どもの食と栄養 健やかに発達する食生活をめざして』（医歯薬出版）							
参考文献		授業の中で適宜紹介する。							

科目名	保育の基礎理論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	50%
							レポート	40%
							提出課題	－
							授業態度・意欲	10%
担当者	小林 建一	単位数	2	学年・期間	1 年期 前 期			
授業のねらいと概要		保育の歴史・思想や制度、内容、方法、現状と課題などについて、体系的な学習を進めながら、保育全般について理解を深める。テキスト、プリント、パワーポイント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。						
到達目標		・保育の基本的な知識を身につけ、保育の意義が理解できるようになる。 ・望ましい保育のあり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・自らの保育についての考え方を表現する力が身につくと同時に、実際に保育を展開する技能の基礎が培われる。 ・子どもの最善の利益となるような保育への関心・意欲・態度が育つようになる。						
学習者への期待（含準備学習）		事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。授業中に生じた疑問点等は質問するなど、学習への積極的な取り組みを期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	保育の基本（1）		保育とは何か、子どもの最善の利益と保育（あらしを説明し、各自で保育者への心構えをまとめるワークを課す。）					
2	保育の基本（2）		保育の社会的な意義と役割、保育所保育と家庭的保育（問題提起的に説明し、これからのあり方について考えてもらう。）					
3	保育の基本（3）		養護と教育の一体性、環境を通して行う保育（映像資料により理解を深め、意義と課題についてグループで討議し、発表する機会とする。）					
4	保育の制度と現状（1）		日本の保育制度（保育所・幼稚園・認定こども園について各自が調べ、比較検討するワークを課す。）					
5	保育の制度と現状（2）		諸外国の保育制度（映像資料も活用し、日本の制度と比較しながら理解を深めてもらう。）					
6	保育の目標と内容		保育所保育指針の基本的な考え方（内容を説明し、重要事項について調べて記述するワークを課す。）					
7	保育の方法（1）		発達の特性と発達過程の理解（あらしを説明し、グループで調べて解決するワークを課し、発表してもらう。）					
8	保育の方法（2）		発達過程に応じた保育、個と集団を生かした保育（内容を説明し、各自テーマごとに問題点と課題を見つけ出し、発表する機会とする。）					
9	保育の方法（3）		生活と遊びを通して総合的に行う保育（内容説明と映像記録の視聴を通して、このテーマへの感想を述べてもらう。）					
10	保育の計画と評価（1）		計画・実践・記録・評価・改善の過程（内容を説明し、課題についてグループで討議し、発表し批判し合う機会とする。）					
11	保育の計画と評価（2）		記録を通しての省察（評価）（保育実践を映像記録で観察し、実際に記録し自己の保育として省察・評価するワークを課す。）					
12	保育の思想と歴史（1）		諸外国の保育の思想と歴史（映像資料も活用しながら、特徴を理解し、日本への影響についても考えてもらう。）					
13	保育の思想と歴史（2）		日本の保育の思想と歴史（映像資料も活用しながら、諸外国からの影響と日本の独自性について考えてもらう。）					
14	保育者の専門性（1）		保育士の資質・任務・職業倫理（映像資料もまじえて説明し、課題を完成するワークを行い、発表し合う機会とする。）					
15	保育者の専門性（2）		家庭・地域等との連携や協働（映像資料もまじえて説明し、課題を解決するワークを課す。）					
テキスト		白川蓉子・稲垣由子・北野幸子・奥山登美子著：『育ちあう乳幼児教育保育』（有斐閣） 厚生労働省編：『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）						
参考文献								

科目名	社会的養護Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	70%
							レポート	－
							提出課題	20%
							授業態度・意欲	10%
担当者	国枝 幸子	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期			
授業のねらいと概要		児童の社会的な養護について基本的な福祉の仕組みを知り、また、保育士が社会的養護の中で取るべき、基本的な児童との関わりや支援を理解する。						
到達目標		・社会的養護の仕組み、各施設の目的、対象とする児童などを把握する。 ・社会的養護において児童との適切な関わりと基本的な支援を理解する。						
学習者への期待（含準備学習）		・施設実習に直接関係する科目であり、社会的養護を要する児童に暖かい思いを持つようにする。 ・テキスト、プリント、DVDなどにより、講義を進めるので、各自予習、復習、まとめをしていくこと。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	保育と社会的養護		社会的養護とは何か、保育士と社会的養護					
2	社会的養護における児童観		子どもの権利、基本的ニーズ、発達の保障					
3	子どもと家庭を取り巻く状況		現代社会と家庭、虐待問題、保護者支援					
4	児童養護の歴史		日本と他国における児童養護の歴史					
5	社会的養護の仕組		児童相談所、措置と契約、児童福祉施設、里親制度 補完的・支援的養護、療育的養護、代替的養護、支援的養護					
6	家庭的養護と施設養護		愛着形成、施設の小規模化、乳児院、児童養護施設					
7	小規模住居型児童養護事業 里親制度		ファミリーホーム 里親登録、里親の種類、里親支援					
8	社会的養護の専門職		保育士、児童指導員、児童自立支援専門員、児童生活支援員 母子指導員					
9	児童虐待対応の専門職		家庭支援専門相談員、心理療法担当職員、個別対応職員					
10	施設養護の基本原則		個別化、親子関係の尊重、集団の活用、自立支援					
11	施設における養育		入所前後、日常生活支援、自立支援					
12	リービングケア、アフターケア		家庭復帰、進学、就職、児童自立生活援助事業					
13	障がいのある児童の社会的養護		肢体不自由児施設、知的障害児施設					
14	テスト課題について		まとめとテスト範囲について					
15	情緒・行動に問題のある児童の社会的養護		情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設					
テキスト		新保育士養成講座編纂委員会編：『改訂1版新保育士養成講座 第5巻社会的養護』（全国社会福祉協議会）						
参考文献		『社会福祉基本用語集』（ミネルヴァ書房） 『社会福祉小六法2013年版』（ミネルヴァ書房）						

科目名	保育の心理学Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	70%
								レポート	20%
								提出課題	—
								授業態度・意欲	10%
担当者	青木 光子		単位数	2	学年・期間	1 前期			
授業のねらいと概要		子どもの発達および保育実践にかかわる心理学の基礎知識を習得し、子どもへの理解を深めるとともに、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。また、発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。							
到達目標		・保育実践にかかわる心理学の基礎知識を習得し、子どもへの理解を深めることができる。 ・子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解することができる。 ・子どもの発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考えることができる。							
学習者への期待（含準備学習）		乳幼児期の子どもの発達の特徴を理解し、乳幼児の保育はどのようにあったらよいか、自分なりに課題意識を持ちながら授業に臨んでほしい。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	発達のしくみと様相			(1)発達のしくみ					
2	〃			(2)人間の発達の特殊性					
3	〃			(3)発達の様相					
4	自分を取りまく世界の認識 — 認知の発達			(1)知覚の発達 (2)記憶の発達					
5	〃 〃			(3)思考の発達 (4)心理テスト－P C エゴグラム					
6	自分を取りまく人々とのかかわり — 対人関係の発達			(1)母子相互作用 (2)愛着					
7	〃 〃			(3)愛着対象のひろがり					
8	自分自身を知る — 自己の発達 〃			(1)自己の知覚 (2)自己意識の発達					
9	〃 豊かな内的世界 — 情緒の発達			(3)自己制御 (1)情緒とは何か					
10	〃 社会的認知と社会的行動の発達			(2)乳児期の情緒発達 (3)幼児期の情緒発達					
11	〃 〃			(1)情緒の社会科 (2)他者理解の発達					
12	さまざまな発達障害			(3)愛他行動の発達 (4)道徳性の発達					
13				(1)発達障害とは (2)精神機能の発達障害					
14	子どもの問題行動			(3)ことばの障害 (4)その他の発達障害					
15				(1)問題行動のとらえ方と対応 (2)育児相談の重要性 (3)育児相談事例					
テキスト		繁多進監修：『新乳幼児発達心理学』（福村出版） 波多野誼余夫、稲垣佳世子：『知的好奇心』（中公新書）							
参考文献		『保育の心理学』（光生館）							

科目名	保育内容の指導法 人間関係		必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
								レポート	40%
								提出課題	40%
								授業態度・意欲	20%
担当者	安藤 節子		単位数	2	学年・期間	1 前期			
授業のねらいと概要		保育内容の領域「人間関係」のねらい・内容について学びながら、保育の場における人間関係について、発達の、保育・教育的理解を深める。							
到達目標		保育の場に乳幼児の遊びや生活する姿から、発達の・保育教育的意義を読み取り、乳幼児理解の力をつけ、温かで共感的なかわりができるようになる。							
学習者への期待 (含準備学習)		自分の幼少期遊びや、現在の子どもたちの遊びに関心を持ってほしい。 自らの経験を振り返りながら考える習慣を身につけてほしい。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	保育における遊びの理かい			運動遊びを通して					
2	保育における環境理解			運動を呼び起こす環境のあり方					
3	保育における人とのかわり			遊びと人とのかわり					
4	同上			けんかやトラブルと人とのかわり					
5	同上			けんかの教育的意義					
6	同上			けんかへの対応					
7	想像的遊びについて			想像的遊びの保育・教育的な意義					
8	同上			想像的遊びの発達の理解					
9	同上			想像的遊びの援助について					
10	探索活動について			探索活動の保育・発達の意義					
11	探索活動について			探索活動の実際					
12	探索活動について			探索活動を育てる保育者のあり方					
13	事例研究			個人での振り返り					
14	事例研究			グループでの話し合い					
15	事例研究とまとめ			クラスでの話し合いとまとめ					
テキスト		森上史朗ほか：『最新保育講座 8 保育内容人間関係』（ミネルヴァ書房） 『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』 『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）							
参考文献									

科目名	保育内容の指導法 環 境	必修・選択	必 修	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	—
							レポート	40%
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	20%
担当者	安藤 節子	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期			
授業の ねらいと概要		保育内容領域「環境」のとらえ方について理解する。 保育における「環境」の背景になることについて、理解を深める。 身近な環境にかかわることの意味について学ぶ。						
到 達 目 標		・身近な自然環境に関心を持ち、幼児にとっての意味について考える。 ・保育における幼児理解や発達理解について学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		動植物などの自然環境への関心を高めるようにしてほしい。 社会の文化的環境に関心を持ち、乳幼児にとっての意味を考えてほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	領域「環境」とは		ねらいと内容					
2	身近な植物とのかかわり		絵本お手玉の種から					
3	同上		様々な事例から					
4	身近な小動物とのかかわり		飼育することの意味について					
5	同上		事例から学ぶ					
6	園庭の環境		子どもの視点・保育者の視点					
7	同上		事例研究					
8	保育室の環境		安心と意欲					
9	同上		かかわりと工夫					
10	素材とのかかわり		多様なかかわり					
11	同上		事例研究					
12	幼児理解について		事例から					
13	同上		共感と受容					
14	同上		発達の理解について					
15	同上		問題行動について					
テ キ ス ト		大豆生田啓友：『最新保育講座 6 保育方法・指導法』（ミネルヴァ書房） 『保育所保育指針解説書』 『幼稚園教育要領解説』 『保育用語辞典』						
参 考 文 献								

科目名	保育内容の指導法 言 葉		必修・選択	必修	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	80%
								レポート	－
								提出課題	－
								授業態度・意欲	5%
								実技試験	15%
担当者	蛭田 一美		単位数	2	学年・期間	1 年 後 期			
授業のねらいと概要		領域「言葉」のねらいと内容を学ぶ。 乳幼児期における言葉の発達について、保育者はどのように子どもの言葉を捉え、援助していくことができるかを学ぶ。							
到達目標		・領域「言葉」のねらいと内容、言葉の発達について理解することができる。 ・乳幼児が言葉を獲得していく過程に関心を持つ。 ・グループワークに積極的に参加し、自分を表現することに努める。 ・素話を語る技術を身につける。							
学習者への期待 (含準備学習)		・子どもの言葉に耳を傾け、学生自身が面白いと感じる心を大切にしてほしい。 ・保育者の言葉は子どもの言葉の育ちに大きくかかわってくる。日頃から、自分の話し方、聞き方にも関心を持つことを期待する。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	言葉のオリエンテーション (ワークショップ)			子どもの言葉と保育者のありかた					
2	保育の基本と領域「言葉」			乳幼児の発達と保育					
3	乳幼児の言葉			保育者との関係性					
4	言葉の発達の理解			乳幼児期のコミュニケーション					
5	言葉の特徴と発達			言葉の獲得の経緯					
6	領域「言葉」と保育方法Ⅰ			領域「言葉」のねらいと保育者の役割					
7	保育の基本と領域「言葉」			幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらいと内容の理解					
8	領域「言葉」保育の実際Ⅰ			乳幼児が安心して表現するプロセス					
9	領域「言葉」保育の実際Ⅱ			言葉で表現する子どもを育てるための保育					
10	保育者の役割と援助Ⅰ			言語環境としての保育者とは					
11	保育者の役割と援助Ⅱ			経験の共有・表現・言語環境としての保育者を考える					
12	「言葉」と実践上の留意点			保育の展開の中から～言葉遊び・文字指導・表現活動					
13	「言葉」と保育の総合性			表現活動のワークショップ					
14	文化財との出会い			表現活動としての「素話」					
15	まとめ								
テキスト		柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編： 『最新保育講座 10 保育内容「言葉」』（ミネルヴァ書房）							
参考文献		『保育所保育指針解説書』 『幼稚園教育要領解説』							

科目名	幼児指導法	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
							レポート	40%
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	5%
							実技試験	15%
担当者	蛭田 一美	単位数	1	学年・期間	1 前期			
授業のねらいと概要		・多様な遊びの直接体験を行う。 ・保育で大事にしている遊びの楽しさや、充実感を味わうことにより遊びの意味を理解する。 ・保育者として大事な資質のコミュニケーション力、表現力を磨く。						
到達目標		・遊びの直接体験を行い、楽しさや、充実感を味わい、遊びの意味を理解する。 ・幼児指導法を多面的に学ぶことにより、学生自身の感性と表現力の獲得を目指す。 ・グループワークの取り組みを通し、保育者として必要な積極的な姿勢や協力態度を養う。						
学習者への期待（含準備学習）		・直接体験したことを保育の学びとして重ね、関連付けていく力が育つことを期待する。						
回	授業計画		授業内容					
1	オリエンテーション		幼児指導法について					
2	保育における遊びとはⅠ		遊びの多様性と魅力					
3	保育における遊びとはⅡ		遊びとは何か					
4	絵本について		絵本の読み聞かせについて					
5	造形的な遊びⅠ		紙の素材（１） 新聞紙					
6	造形的な遊びⅡ		紙の素材（２） 段ボール・色画用紙・はさみ					
7	造形的な遊びⅢ		土・粘土の素材					
8	遊びの意味		直接体験の振り返り					
9	音楽的な遊びⅠ		クレヨンと組み合わせ・スクラッチ					
10	音楽的な遊びⅡ		うたあそび・わらべうた・手遊び					
11	集団と遊びⅠ		身体表現					
12	集団遊びⅡ		グループで取り組む創作表現					
13	伝承遊びの展開		伝承あそびの意味づけ（独楽・あやとり）					
14	行事の捉え方と指導		行事の意味と課題					
15	まとめ		求められる専門性					
テキスト		小林美実編：『続こどものうた200』（チャイルド社）						
参考文献		『保育所保育指針解説書』 『幼稚園教育要領解説』						

科目名	乳児保育Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
担当者	鈴木 万紀子	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	70%
							提出課題	10%
							授業態度・意欲	20%
授業の ねらいと概要		乳児期は人格の基礎をつくる時期であることを理解し、乳児を保育するために必要な知識と実践を学び、保育に携わることの意味深さを知る。						
到達目標		・乳児に関心を持ち、発達過程を理解し乳児保育に必要な知識の習得を目指す。 ・乳児の育ちを支える育児観を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		・命の尊さを感じ、乳児を慈しむ気持ちを持ちながら、乳児の発達過程を学ぶ。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	乳児の日常生活		保育園生活や生活習慣を通しての乳児の関わり方について					
2	〃		基本的生活習慣について					
3	乳児の遊び		乳児の心に寄り添うとは					
4	〃		生活の中の遊びとは					
5	健康と安全		健康と安全への配慮や支援の仕方					
6	〃		乳児の病気について					
7	環境による保育		環境が及ぼすことの意味深さについて					
8	乳児と育児文化		育児文化について					
9	保育園文化		乳児の育ちの捉え方					
10	乳児の日常の計画と評価		乳児の姿の捉え方から指導計画、評価					
11	〃		家庭との連携について					
12	日常の中で育つもの		0～1歳3カ月未満					
13	〃		1歳3カ月～2歳未満					
14	乳児と共に暮らす大人		乳児の最善の利益を考えての関わりについて					
15	乳児保育を支えるもの		保育所保育指針をふまえて乳児保育を考える					
テキスト		なし						
参考文献		『保育所保育指針解説書』						

科目名	障がい児保育	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	40%
担当者	永井 博敏	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	40%
							提出課題	－
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要		・「障害とは何か？」などの基本的な知識を得ることから始め、障がい児保育についての基本姿勢や心構え及び対応等について保育一般論との関連性を図りながら学び取ると共に“保育観”の確立を目指して授業を進める。 ・映像資料を使った“保育カンファレンス”を通じて保育者の援助について考える。						
到達目標		・障害の種類や特徴、障がい児保育の基本姿勢等に関する基礎的な知識を理解する。 ・保育カンファレンスを通じ、幼児の育ちや保育者の工夫を読み取ることができる。 ・障がい児保育について得たことを的確にレポート化し、発表することができる。 ・障がい児・者に関することから関心をもち、進んで学ぼうとする意欲を持つ。						
学習者への期待 (含準備学習)		障がい児・者との触れ合い体験のある学生は決して多くないのが現実である。この授業では障がい児に関する基礎的なことがらを学び、“障がい”を理解するとともに将来の保育者として必要な識見と心構えを得られるよう積極的な授業参画を期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション 「障がい」とは？		○授業のねらいと学び方に関する説明、実態調査アンケート 「障がい」の基本的なとらえ方、関連する法令の規定など					
2	障がい児保育の変遷と現状		○主に日本における障がい児教育・保育の歴史的変遷 障がい児の実態と保育の現状					
3	障がいの理解と発達の援助 1		○知的障がい児の特徴とその発達を促す保育者の援助					
4	障がいの理解と発達の援助 2		○肢体不自由児の特徴とその発達を促す保育者の援助					
5	障がいの理解と発達の援助 3		○視覚障がい・聴覚障がいの特徴と保育者の援助					
6	障がいの理解と発達の援助 4		○AD／HD，LDを主とする発達障がいの理解と保育者の援助					
7	障がいの理解と発達の援助 5		○自閉症スペクトラムの発達の特徴理解と保育者の援助					
8	障がいの理解と発達の援助 6		○言語障がいを主とするコミュニケーション障がいの援助					
9	障がい児保育の実例－1		○映像資料を使って次の観点で保育の在り方を学び、保育カンファレンス（場面検討等）や観点別のレポート作成を行う。 ・指導計画と一人一人の個性が活かされる保育実践とは？ ・個性や能力を大切にし、徐々に発達を促す生活や遊び ・保育者の環境構成や援助の具体的な工夫、心構えなど ・保育者間の共通理解や協働態勢と幼児の育ち ・障がい児の育ち、周りの幼児の育ち、保育者の育ち					
10	障がい児保育の実例－2							
11	障がい児保育の実例－3							
12	障がい児保育の実例－4							
13	家庭及び関係機関との連携－1		○保護者や家族の心情の受容と情報共有の重要性、専門機関との連携による障がい児保育の重要性					
14	家庭及び関係機関との連携－2		○個別の支援計画の重要性と日常的な専門機関との情報交換、小学校への適正就学					
15	障がい児保育の今後の課題		○支援の在り方、保育者の基本姿勢など今後保育に携わるための心構えや課題についての話し合い及び授業の反省					
テキスト		自作プリントを使用（A4 ファイルが必要）						
参考文献		特定せず。（その都度、関連する書籍等を紹介する）						

科目名	教育実習指導	必修・選択	必修	授業形態	実習	評価の方法	試験	—
担当者	猿田 興子	単位数	1	学年・期間	1・2年 通年		レポート	—
							提出課題	30%
							授業態度・意欲	20%
							実習評価	40%
実習記録	10%							
授業のねらいと概要		この授業は初めての教育実習を通して実習への関心を深め、円滑に進めるための実践的知識や心構えを講義と映像・附属幼稚園見学などを通して知る。幼稚園における保育内容・機能などを実践現場での体験を元に理解すると共に、身につけた知識・技能を総合的に実践・省察することをねらいとする。1、2年次を通して行う。						
到達目標		・実習の意義・目的の理解と、幼稚園の役割や機能について理解する。 ・具体的な実践を通して実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・事後指導を通して実習の自身による振り返りを行い、新たな課題や目標を持つ。						
学習者への期待（含準備学習）		保育・子どもへの関心を深め、実習に期待を持って取り組む気持ちにつなげてほしい。主体的な学びとなるよう学生間のディスカッションや模擬授業などに取り組む中で保育者としての人間性豊かな成長を望む。						
回	授業計画		授業内容					
1	オリエンテーション		2年間における実習と授業の流れを知る					
2	教育実習の位置づけ		実習回数・期間・種類について					
3	実習園の選択について		幼稚園実習先の選択する仕方を知る					
4	幼稚園の中の子どもと保育者		子どもと保育者のイメージを語り合う					
5	実習の方法と理解		ビデオ視聴を通して					
6	幼稚園教育要領からⅠ		環境による指導と教育について					
7	幼稚園教育要領からⅡ		遊びによる指導と教育について					
8	幼稚園教育要領からⅢ		小学校との指導方法の比較を通し、その特徴を知る					
9	実習園オリエンテーション		連絡方法・態度・持ち物・内容を知る					
10	実習における基本的態度・マナーⅠ		実習生の生活習慣・健康維持の重要性					
11	実習における基本的態度・マナーⅡ		実習生の社会性について（コミュニケーション）					
12	附属幼稚園の見学Ⅰ		子どもの遊びの姿から実習を探る					
13	附属幼稚園の見学Ⅱ		見学後のディスカッション・省察					
14	実習に必要な準備事項		ビデオ視聴を通して					
15	幼稚園実習記録の記述についてⅠ		幼稚園の目的・機能について					
16	幼稚園実習記録の記述についてⅡ		保育の理解・子どもの理解・記録法・エピソード					
17	幼稚園とは		幼稚園の一日の流れから保育者と子どもについて考える					
18	総合的発達の特徴		幼児の遊び・生活を発達と関連づけて考える					
19	領域のとらえ方		遊びや生活の中で発達を読み取ることを考える					
20	活動のとらえ方		幼児の視座から活動を捉える					
21	環境構成と主体的遊び		幼児の視座から環境を捉える					
22	教育実習を終えてⅠ		実習自己評価を通して自身の実習を振り返る					
23	教育実習を終えてⅡ		グループディスカッションで視野を広げる					
24	教育実習の省察Ⅰ		実習中の事例を通して考え合う					
25	教育実習の省察Ⅱ		部分実習の実践から子どもの状態を考える					
26	保育者の専門性と実習		保育者としての意識の重要性と専門性を知る					
27	幼稚園教育要領から		実習と幼稚園教育要領の内容を重ね合わせて考える					
28	幼児教育をめぐる変化と課題Ⅰ		幼児期を豊かにする園と保育者とは					
29	幼児教育をめぐる変化と課題Ⅱ		保護者のニーズ・子育て支援とは					
30	教育実習・学びのまとめ		子ども、保育を観る目の変容について					
テキスト		大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩： 『最新保育講座 12 幼稚園実習 保育所・施設実習』（ミネルヴァ書房）						
参考文献		『幼稚園教育要領解説』 『保育用語辞典』						

科目名	保育実習指導Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	－
							レポート	－
担当者	猿田 興子	単位数	2	学年・期間	1・2年 通年		提出課題	30%
							授業態度・意欲	20%
							実習評価	40%
							実習記録	10%
授業の ねらいと概要		この授業は実習に向けて保育所・児童福祉施設の目的と機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得することをねらいとする。さらに自らの課題を明確にし、実習を通して保育者として必要な資質・能力・技術を得ることを目指す。1、2年次を通して行う。						
到達目標		・保育実習の意義・目的を知り、その内容と自らの課題を明確にする。 ・保育実習における事例から、子どもにとって望ましい保育者の姿に触れて気づく。 ・実習体験と事後授業を通して振り返りと自己評価を行い、自分の課題を明確にする。						
学習者への期待 (含準備学習)		保育実践の体験を通して実習への関心を深め、主体的に学ぶ姿を望む。事前・事後授業で学生間のディスカッションや事例を中心に自身の学びを実感し、保育者としての人間性向上につなげてほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		2年間における保育実習の回数・期間・種類について					
2	各実習の内容と位置づけ		実習の目的とその概要					
3	実習園の選択について		実習先(児童福祉施設)の希望についての諸注意					
4	実習の方法と理解		ビデオ視聴を通して					
5	保育所保育指針についてⅠ		幼稚園教育要領との違いから					
6	保育所保育指針についてⅡ		年齢の違いによる発達の特徴を知る					
7	実習園オリエンテーションについて		連絡方法・態度・持ち物など					
8	実習における基本的態度・マナーⅠ		実習生の生活習慣・健康維持・マナー他					
9	実習における基本的態度・マナーⅡ		実習生の社会性について					
10	保育所における安全管理の重要性		守秘義務の重要性・養護的側面から探る					
11	保育実習記録の記述についてⅠ		保育所の目的・機能					
12	保育実習記録の記述についてⅡ		保育所生活の流れ・保育の見方・子どもの見方					
13	保育実習記録の記述についてⅢ		保育用語・記録法・記録時の諸注意					
14	未満児保育における養護について		保育実習における未満児への望ましい援助について					
15	0・1・2歳児の生活と遊び		その特徴と配慮点・ビデオ視聴から					
16	3・4・5歳児の生活と遊び		その特徴と配慮点・ビデオ視聴から					
17	保育実習を終えて		学生同士の話し合い・省察レポート記述で振り返りをする					
18	施設実習に向けて		学生同士のイメージの伝え合いから					
19	施設実習についてⅠ		施設の種類とその特徴					
20	施設実習についてⅡ		施設の生活と保育者の援助の内容					
21	施設実習についてⅢ		施設の理解と保育士の役割					
22	施設別実習事前オリエンテーションⅠ		学生・施設担当教諭によるディスカッション					
23	施設別実習事前オリエンテーションⅡ		学生・施設担当教諭によるディスカッション					
24	施設実習記録の記述について		入所・通所児の理解から					
25	施設実習に必要な諸準備について		保育所での実習との違いから					
26	施設実習を終えてⅠ		学生・施設担当教諭によるディスカッション・省察他					
27	施設実習を終えてⅡ		学生・施設担当教諭によるディスカッション事後指導として					
28	子育て支援について		実習を通して子育て支援の重要性を探る					
29	保育実習全体の反省		保育者としての意識の変化とその専門性を知る					
30	2年間における保育実習のまとめ		乳児・幼児・入所児の理解と自身の変化について					
テキスト		大豆生田啓友／高杉展／若月芳浩： 『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』（ミネルヴァ書房） 生活技術教育研究会：『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎－講義・実習・生活のマナーを学ぶ－』（ななみ書房）						
参考文献		『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『保育用語辞典』						

2 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	70%
							レポート	10%
担当者	青木光子	単位数	2	学年・期間	2 年 通 年		提出課題	－
							授業態度・意欲	10%
							聖園アワー感想	10%
授業のねらいと概要		新約聖書を中心に読み、イエス・キリストの生き方と教えから、人間の真の幸福を探求し、自分と人を愛する生き方を学ぶ。						
到達目標		・イエス・キリストの生涯と教えに興味・関心をもち、理解することができる。 ・イエス・キリストの生き方と教えを通して、神の愛を知り、日常生活の中で自分と人を愛する生き方を実践することができる。						
学習者への期待 (含準備学習)		イエス・キリストの生涯を通して、その教えと生き方を知り、自分自身を省みながら、イエスの愛の模範に倣って生活することを期待しています。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	荒れ野での試み		誘惑と戦うイエス					
2	イエスの弟子		弟子の選び					
3								
4	イエスの教え		(1)山上の垂訓					
5	〃		(2)敵を愛せよ					
6	〃		(3)人を裁くな					
7	イエスのたとえ話		(1)よいサマリア人のたとえ					
8	〃		(2)金持ちとラザロ					
9	〃		(3)種まきのたとえ					
10	〃		(4)ぶどう園の労働者					
11	祈りについて		祈りについて、主の祈り					
12	神のあわれみ		(1)見失った羊					
13	〃		(2)放蕩息子					
14	イエスの奇跡		(1)重い皮膚病患者のいやし					
15	〃		(2)エリコの盲人いやされる					
16	〃		(3)出血病の女のいやし					
17								
18	最後の晩餐		(1)イエス弟子たちの足を洗う					
19			(2)聖体の制定、新しい掟					
20	キリストの苦しみと死の意味		(1)権威者の反対					
21			(2)ゲッセマネの祈り、逮捕					
22			(3)ユダの裏切り、ペトロの否み					
23			(4)裁判、十字架の刑、犯罪人の赦し、十字架上のイエスの言葉					
24	キリストの復活と昇天		(1)キリストの復活、使徒たちへの現れ、昇天					
25			(2)DVD 視聴「キリストの死と復活」					
26								
27	聖霊降臨		聖霊降臨					
28	キリストの教会		教会の誕生					
29								
30	使徒パウロについて		パウロの回心と宣教					
テキスト		『新約聖書』						
参考文献		『カトリック教会の教え』 『カトリック教会のカテキズム』						

科目名	保育の英語	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	70%
							レポート	10%
							提出課題	10%
							授業態度・意欲	10%
担当者	大西 絵理香	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期			
授業の ねらいと概要		外国人の親子の入園を想定した教科書の学習を通して、英語による子どもの保育や保護者との対応の方法を学ぶ。また、外国人の親子に必要な配慮の仕方をこれまでの専門知識や実習経験をもとに考える。						
到達目標		・外国人園児の保育において、子どもと英語で会話することができる。 ・子どもに関して必要な連絡を取るために、外国人保護者と英語で会話し、園便り作成や連絡帳記入などを英語で行うことができる。						
学習者への期待 (含準備学習)		毎回、プリントを使用するので、ノートは特に必要ない。実際の現場で役立つ学習であることを意識し、これまでの保育の勉強や実習経験を十分に活用して学びを深めてほしい。授業の取り組みにも積極的に参加することを望む。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	Unit 1: First Step to Childcare English		自己紹介の仕方や、保育園内の場所を表す語句を学ぶ。					
2	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School		外国人園児入園の際の挨拶の仕方や、家庭調査票の作成、保育室内の物を表す語句を学ぶ。					
3	Unit 3: Time and Numbers		園児の持ち物を説明する表現や、登園時間を伝える表現を学ぶ。					
4	Unit 4: Directions		様々な場所への道順の説明方法を学ぶ。					
5	Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi		外国人園児を他の園児に紹介する方法、子どもの遊び、園庭の遊具を表す語句を学ぶ。					
6	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up		登園・降園時の会話や、天候・子どもの感情・子どもの状態を表す語句を学ぶ。					
7	Unit 7: Jobs at Nursery School		保育者の一日の仕事の流れや、子どもの年齢の違いによる保育者の仕事の違いを英文で読み、学ぶ。					
8	Unit 8: Lunchtime		食品や献立、調理法などの英語表現を表す表現を学ぶ。					
9	Unit 9: Toilet Dialog		子どもの排泄に関する表現や、英語による連絡帳記入方法を学ぶ。					
10	Unit 10: Fighting		子どものけんかやトラブル際の声かけの仕方や、子どもの身体部位に関する語句を学ぶ。					
11	Unit 11: Injuries and Illnesses		子どものけがや病気に関する表現や、医療機関、救急処置に関する語句を学ぶ。					
12	Unit 12: Telephone Calls		英語による電話対応の仕方を学ぶ。					
13	Unit 13: Field Trip		保育園の年間行事や、行事のお知らせの作成方法について学ぶ。					
14	Unit 14: Baby Care		外国人の赤ちゃんへの言葉かけの仕方や、園便りの作成方法を学ぶ。					
15	Unit 15: Graduation Day		外国人園児の卒園の際の祝福や挨拶の表現を学ぶ。					
テキスト		赤松直子・久富陽子共著：『保育の英会話 (Childcare English)』(萌文書林)						
参考文献								

科目名	声楽Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	30%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	70%
担当者	櫻庭 優佳	単位数	1	学年・期間	2 年 通 年			
授業の ねらいと概要		「子どものうた」を中心とした総合的な音楽表現を通して実践力を身につける。 子どもたちに音楽の喜びや楽しさを伝えることのできる保育者としての歌唱力を習得する。						
到達目標		・美しい歌声や音を奏でようとする感性を身につける。 ・「子どものうた」を中心とした独唱やアンサンブルができる。 ・心に響く歌唱や音楽を目指し、表現することができる。						
学習者への期待 (含準備学習)		より良い歌声や合唱を作り上げようと、向上心を持って取り組んでください。 様々な音楽に興味を持ち、互いの演奏から学び合いましょう。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	「子どものうた」の導入		グループ毎に子どもの歌の導入に取り組む					
2	(音楽的活動の実践を考える)		6～7人のグループを作り、課題曲を設定					
3			楽曲研究をし、それぞれの曲に合った工夫、導入の仕方を考える(ペーパーサート、歌紙芝居、劇、ダンス等)					
4								
5								
6								
7								
8	聖心のミサに向けて		ミサ曲と聖歌を歌う					
9								
10	「子どものうた」の独唱		複数の課題曲の中から、自分に合った歌を選び独唱に取り組む					
11			グループ毎に発表会を行い、聴き手として、よい歌唱とは何かを考える					
12								
13	アンサンブルを楽しむ		アンサンブル・コンテストに向けて、クラス合唱に取り組む					
14			・課題曲は身体表現も加えてパフォーマンスする					
15			・自由曲は各クラスのそれぞれの響きを充実させて合唱する					
16								
17								
18								
19								
20								
21	クリスマス・ソングを歌う		子どもと楽しめるクリスマス・ソングに取り組む					
22			グループ毎に楽器や身体表現を加えて発表する					
23								
24	クリスマス・ミサに向けて		ミサ曲と聖歌を歌う					
25								
26	「声楽」のまとめ		子どもの感性を豊かにする「歌唱」とは何かを考え、「歌唱」のまとめを行う					
27								
28	卒業感謝のミサに向けて		ミサ曲と聖歌を歌う					
29	卒業式に向けて		式歌を歌う					
30								
テキスト		聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学) 神原雅之、鈴木恵津子監修・編著:『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) ※その他 随時プリント配布						
参考文献								

科目名	器楽Ⅱ(ピアノ)	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	50%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	50%
担当者	東海林 美代子 他 8 名	単位数	1	学年・期間	2 年 通 年			
授業の ねらいと概要		幼児教育者として必要なピアノの基礎的テクニックを習得し、表現力を養う。 子どもの歌の弾き歌いができるようにさせる。						
到達目標		・幼児教育者として必要なピアノの基礎的テクニックを習得する。 ・音楽に対する感性を磨き、表現力を高める。 ・子どもの歌の弾き歌いができる。						
学習者への期待 (含準備学習)		・様々な楽曲・練習曲を通して、より高い音楽表現ができるようになることを期待します。 ・毎回課題を十分に練習し授業に臨んでください。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	1. 個人の進度・能力に応じた練習曲と 楽曲を課し、レッスン形式で行う		・レッスンは1時間に5名程度 ・レッスンの過程では、演奏及び練習のポイントについて、奏法や運指法等具体的に指導する					
2								
3								
4								
5	2. ピアノ経験者には、グループレッ スンにより、より高い音楽表現の できる奏法を習得させる		・グループレッスンは1時間に4名程度 ・ブルグミュラー「25の練習曲」・「18の練習曲」ギロック「こどもの ためのアルバム」その他小品集等をテキストとして使用する					
6								
7								
8								
9	3. 弾き歌い		・弾きながら歌うという経験を多く積み重ねることで、保育の現場に 即した演奏技術を高めるようにする					
10								
11								
12								
13	前期実技試験(弾き歌い)		弾き歌いの課題を3曲以上練習し、1曲を指導者と話し合って選曲し、 演奏する					
14								
15								
16								
17	就職に向けて		保育の現場で役立つ実力を身につけるために、様々な楽曲に取り組む					
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30	後期実技試験 まとめ		自由曲を指導者と話し合って選曲し、1曲を演奏する					
テキスト		『Piano Lesson 60 時間』(音楽教育研究協会) ※上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する						
参考文献		『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)						

科目名	幼児造形Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
担当者	小笠原 京子		単位数	1	学年・期間	2 年 後 期		レポート	—
								提出課題	50%
								授業態度・意欲	50%
授業の ねらいと概要		・表現・素材・技法を考えた制作をし、自らの感性を高め、豊かな表現力と技術を習得する。 ・幼児期の造形活動をとおして育てたいものや保育者の役割、環境構成の大切さについて考える。 ・身近にある自然材、紙、ひも、紙粘土などのさまざまな材料を体験したり、表現方法を工夫したりしながら平面や立体作品を制作する活動が中心となる。							
到達目標		・身近な自然やものの色や形、感触などから、表現の自由な発想、構想をもつことができる。 ・造形材料・技法・制作過程を理解し、自分なりのイメージを持ちながら制作することができる。 ・幼児の造形表現に係る材料、素材の活用や作成について理解し、応用していく意欲を持つことができる。							
学習者への期待 (含準備学習)		・幼児の遊びと造形表現とのつながりに関心をもちながら学ぶことを期待します。 ・実技中心となるので、スケッチブック、のり、はさみなどは常に準備してください。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	ガイダンス			授業計画 進め方についての確認					
2	表現をとおして育てたいもの 表現を育む保育者の役割			こどもの表現活動の理解と支援のありかたをV T Rを視聴しながら理解する。					
3	指人形の制作			ボール紙、各種自然材、毛糸などを使って、子どもとともに作れる指人形を制作する。自己紹介などに役立てる。					
4	ゆらゆら人形			紙皿、和紙、割り箸などを用いて、ゆれる人形を制作する。					
5	お面の制作Ⅰ			平面から半立体の動物のお面をつくる。					
6	お面の制作Ⅱ			人間の顔のお面の基礎を理解しながら制作する。					
7	お面の制作Ⅲ			基礎を応用し、紙や紙粘土を土台とし、その他の材料を効果的に併用しながら制作する。また発表会等などを意識し実際使えるようなものにする。					
8	季節感を表すカレンダーの制作Ⅰ			スッパッターリング、ブラッシング、フロッタージュ、貼り絵、にじみ					
9	カレンダーの制作Ⅱ			など、さまざまな技法を使って、季節感あるカレンダーを制作する					
10	カレンダーの制作Ⅲ								
11	季節感をとらえた環境構成Ⅰ			壁面や空間を想定した保育環境構成のための制作					
	季節感をとらえた環境構成Ⅱ			つるす、つなぐ、置くなどの条件を考える。					
12	線の構成			直線から生まれる構成 線の集積の美しさを表現する。					
13	子どもの遊びと造形表現			いろいろな素材と遊びの展開					
14				紙コップやダンボールなどを活用した遊びの体験をとおして、子どもと一体になって楽しめる造形活動を考える。					
15	まとめと反省								
テキスト									
参考文献									

科目名	幼児造形Ⅲ	必修・選択	選 択	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	—
							レポート	—
							提出課題	50%
							授業態度・意欲	50%
担当者	小笠原 京子	単位数	1	学年・期間	2 年 前 期			
授業のねらいと概要		・制作活動を通して、保育者としての造形力、表現力を豊かにする。 ・幼児の発達と表現の意味を理解し、子どもと一体になって楽しめる造形活動を模索したり、環境構成を工夫したりできる力を身につける。 ・幼児の表現活動と結びつく実技を中心とした授業となる。						
到達目標		・造形活動における子どもの心身の発達にふれ、発達段階に応じた素材や表現方法を考えることができる。 ・材料、用具について学び、扱いに慣れる。 ・季節に応じた環境構成について学び、制作し、創造的な造形力を高める。						
学習者への期待（含準備学習）		・既習した内容と関連させ、幼児の表現における効果的な材料の選択や応用力を身につけることを期待します。 ・実技中心となるので、のり、はさみなどは常に準備してください。						
回	授業計画			授 業 内 容				
1	ガイダンス			授業計画、進め方について説明				
2	幼児の育ちと表現			幼児の発達段階に応じた造形表現活動の理解と支援の仕方（V T R） 幼児の発達と表現の理解と表現にかかわる指導と教材について学ぶ。				
3	身近な素材を使って、つくって遊ぶⅠ			揺れる、動くなどのしくみを理解して、いろいろな素材から選択して制作する。（紙、割り箸、輪ゴム、テープ等）				
4	身近な素材を使って、つくって遊ぶⅡ							
5	モビール制作Ⅰ			さまざまな素材を使って、モビールを制作する。				
6	モビール制作Ⅱ			バランス、動きを考える。				
7	モビール制作Ⅲ			<色画用紙、紙テープ、自然材、毛糸、竹、籐、紙粘土、塩ビ板など素材を生かしたつるすものをつくる。>				
8	こどもの絵を見る			こどもの絵を鑑賞し、発達に応じたこどもの表現についての理解に深める。				
9	万華鏡の制作Ⅰ			万華鏡のしくみについて理解する。				
10	万華鏡の制作Ⅱ			形のおもしろさ、配色の工夫に配慮しながら、制作する。				
11	万華鏡の制作Ⅲ			色セロハンと黒の色画用紙の組み合わせ、連続模様のリズムを生かしながら制作する。				
12	造形環境構成Ⅰ			壁面構成、立体、オブジェなど、造形的な環境構成について考え、季節感も取り入れたものをグループで制作する。				
13	造形環境構成Ⅱ							
14								
15	年間授業のまとめと反省			自由テーマで制作したものを互いに鑑賞する。				
テキスト								
参考文献								

科目名	幼児体育	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	－
							レポート	－
							提出課題	20%
							授業態度・意欲	80%
担当者	内藤 裕子	単位数	2	学年・期間	2 前期			
授業のねらいと概要		幼児の身体的特徴や発達を理解し、それに基づいたあそびや運動方法を学習する。 幼児教育者として、子どもの運動あそびを適切に指導出来るようにする。 あそびを通し、仲間とふれあうことでコミュニケーション能力を豊かにする。						
到達目標		・運動あそびを経験し、その重要性や指導法を習得する。 ・運動あそびを通して、自分の体力向上に努める。 ・運動あそびを自ら考え、わかりやすく指導出来る。						
学習者への期待 (含準備学習)		子どもの遊びを体験することにより、その楽しさや必要性を知ることを期待する。 運動あそびの意義や必要性を理解し、積極的にあそびを創作出来ることを望む。 将来の保育に活用できる能力が身に付く事を望む。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		これからの授業内容の説明					
2	運動あそびの理論と実際		まりつき					
3	運動あそびの理論と実際		けんだま・おはじき					
4	運動あそびの理論と実際		鬼ごっこ					
5	運動あそびの理論と実際		あやとり・ゴム跳びなど					
6	ダンスの理論と実際		幼児むけのダンスを楽しむ					
7	ダンスの理論と実際		ダンスステップの実際					
8	創作ダンス		幼児むけのダンスを創作する					
9	創作ダンス		選曲・表現の仕方・ステップ等の技術的な面を把握する。					
10	幼児むけのダンス発表		行う側・観る側の留意点などについて考える					
11	演習		手あそび・歌あそび・言葉あそびなどを中心に					
12	演習		運動あそびを中心に					
13	集団あそび		身体を動かすあそびを体験する					
14	集団あそび		季節のあそびを楽しむ					
15	まとめ		質疑応答					
テキスト								
参考文献								

科目名	運動表現	必修・選択	選 択	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	—
							レポート	—
							提出課題	20%
							授業態度・意欲	80%
担当者	内藤 裕子	単位数	1	学年・期間	2 年 後 期			
授業のねらいと概要		自らの感性・経験を生かした「表現する力」を養う。 ダンスの楽しさをしる。 イメージと表現の関係を探る。						
到達目標		・身体のいろいろな動きを習得し、表現する楽しさを感じることができる。 ・身体表現することの楽しさを知る。 ・創作活動を通して仲間とのコミュニケーションを楽しむ。						
学習者への期待 (含準備学習)		内面にあるものを表現し、形に表す楽しさを知ることを期待する。 多数で踊る楽しさを体得できることを望む。 仲間と創作することでコミュニケーション能力が育つことを期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		これからの授業の内容の説明					
2	仲間作りのための運動遊び		集団あそび・音楽に合わせた踊りを楽しむ					
3	リズムダンス		ダンステクニックを知る					
4	リズムダンス		子どものためのダンス					
5	リズムダンス		ダンスと美の関係					
6	創作ダンス		創作ダンスの意義の学習					
7	創作ダンス		ダンスのステップについて					
8	創作ダンス		「踊跡」と動きの関係					
9	創作ダンス		作品の確認					
10	創作ダンス作品発表		行う側・観る側の留意点などについて考える					
11	創作劇		脚本・構成などについての話し合い					
12	創作劇		姿勢・立ち方・発声などの基本について学ぶ					
13	創作劇		調整					
14	作品発表		感想・反省などの意見交換					
15	まとめ		質疑応答					
テキスト								
参考文献								

科目名	児童文学	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	40%
							レポート	－
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	20%
担当者	大原　かおり	単位数	2	学年・期間	2　年 前　期			
授業の ねらいと概要		・ 児童文学の歴史、作品研究、作家研究を通して、児童文学の学問的視点を養う。 ・ 語りや読み聞かせを通して、その効果、意義について理解する。						
到達目標		・ 現在に至るまでの児童文学の流れを理解する。 ・ 作品研究、作家研究を通して、児童文学の学問的側面を理解する。 ・ 語りや読み聞かせの実践を通して、その効果、意義について理解する。						
学習者への期待 （含準備学習）		できるだけ多くの作品や評論に触れ、自身の児童文学観を養おう。						
回	授業計画		授　業　内　容					
1	児童文学とは		児童文学の定義					
2	児童文学の歴史		日本の児童文学の流れと背景					
3			・ 明治時代					
4			・ 大正～昭和時代（第二次世界大戦まで）					
5	作品・作家の研究		・ 昭和時代（第二次世界大戦以後）					
6			作品、作家研究とは					
7			研究に取り組もう（グループ活動）					
8			①テーマ（作品、作家）を決める。					
9			②図書館等を利用して、テーマについて調べる。					
10			③調べて気づいたこと、考えたことについて整理し、まとめる。					
11	昔話の世界		④グループ毎に発表する。					
12			⑤テーマに関わる作品を1つ選び、読み聞かせに挑戦する。					
13			※絵本の読み語りとコンサート					
14								
15	学習のまとめ		昔話の世界について					
			・ 世界各国の作品　・ 昔話の魅力					
			・ 背景　・ 役割					
			素話に挑戦					
			①昔話を1つ選び、内容と表現に気をつけて練習する。					
			②みんなの前で語って聞かせる。					
テキスト								
参考文献								

科目名	数 論	必修・選択	選択必修	授業形態	講 義	評価の方法	試験	30%
							レポート	40%
							提出課題	—
							授業態度・意欲	30%
担当者	小林 真人	単位数	2	学年・期間	2 年 期 前 期			
授業のねらいと概要		解説、受講生による手作業、受講生グループによる発表を通して、数や図形を身近に感じてもらう。						
到達目標		身近なできごとに、これまで気がつかなかった数理関係が働いていることを理解し、数や図形に対する親しみが増す。						
学習者への期待（含準備学習）		特別な知識は不要だが、好奇心と、耳をすませてじっくりと考える姿勢を期待する。知識の提供を目的とする授業ではないので、自分で考えること、体験することを期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	平均とつりあい 1		2回の授業を通して、平均とつりあいの関係を実感する。3つの重りのつり合い位置をさがす、天秤、シーソー、てこの原理、など					
2	平均とつりあい 2							
3	ヒストグラム		ヒストグラムという統計グラフを紹介する。どんな傾向が読み取れるかを考える					
4	ヒストグラムと平均		ヒストグラムから平均を読み取る技を紹介し、グループで実行する					
5	サインウェーブ 1		2回の授業を通して、サインウェーブという、波のような繰り返し図形を紹介する。作図、どんなところに見られるか、など					
6	サインウェーブ 2							
7	暗号をつくろう 1		2回の授業を通して、文字を0と1の羅列で表す方法を体験し、どんな工夫が必要かを理解する。文字コード、サイズの節約法、誤解を避ける方法、ハフマンのアイディア、など					
8	暗号をつくろう 2							
9	分数の星		分数を星形の図形であらわすことを考える。「作図」、図による足し算、分数の有限性と、無限性を持つ数など					
10	線画のひみつ 1		2回の授業を通して、点と線で作られた図形で成り立つ不思議な関係を見出し、しくみを解明する。グラフ、ノード、リンク、フェイス、木グラフ、オイラーの式、など					
11	線画のひみつ 2							
12	ぬりえ 1		2回の授業を通して、どんな塗り絵も、ごく少ない色で塗り分けできることを体験して、しくみを解明する。線図形に写し取る、6色で塗り分ける、など					
13	ぬりえ 2							
14	ウェーブのブレンド 1		2回の授業を通して、複数のサインウェーブを重ねると、複雑な波型ができることを体験する。ウェーブのブレンド、作図、花模様を作る、など					
15	ウェーブのブレンド 2							
テキスト								
参考文献								

科目名	生活科の研究		必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	20%
								レポート	20%
								提出課題	20%
								授業態度・意欲	20%
								探究活動の取組	20%
担当者	永井 博敏		単位数	2	学年・期間	2 年期 前 期			
授業のねらいと概要		・幼稚園・保育所における保育と小学校における教育との連携を重要視する観点から、生活科の意義や目的、内容および低学年児童の発達特性との関連性について学ぶ意義は大きい。 ・生活科を理解するために探索活動・栽培活動・表現活動など実践的な内容の授業構成とする。							
到達目標		・生活科の意義について「幼児期の特性」と関連付けて基本的な事柄を理解することができる。 ・生活科の学習内容を理解し、授業展開事例を参考に自ら進んで探究活動等に取り組む。 ・探究活動等を通じて得た情報をもとにイラストやグラフ等を使って表現することができる。 ・仲間と協力しながら栽培活動を継続し、収穫まで意欲的に活動を続けることができる。							
学習者への期待（含準備学習）		保育園・幼稚園との連続性の視点から小学校生活科を理解するとともに、特徴的な学習活動を自ら体験してみることによって一層関心を深めることを期待する。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	オリエンテーション 小学校教育課程の特質	栽培活動：「プランターで野菜を栽培しよう」 ○「ジャガイモ栽培」：土づくりから、たね芋植え、収穫までの世話をする。 （不定期に適宜 時間をとる）	○科目全体計画と修得を期待する能力や態度についての説明。 ○小学校教育課程の現況について理解する。					栽培活動…二名一組の編成により「ジャガイモ」の栽培を行う。植え付けと収穫時に二回の授業を充て、野菜栽培の手順や実施方法のあらましを理解し、実践活動を行う。また、気象状況等を見ながら必要に応じて適宜講義の一部時間を観察等に充てることもある。	
2	教育課程の変遷と生活科の誕生		○合科的な指導、総合的な学習など低学年教育課程の変遷と生活科誕生の経緯を理解する。						
3	（栽培活動「プランターで野菜を栽培しよう」）		○（プランターを使ったジャガイモ栽培の開始） （本時以降は適宜作業を実施）						
4	生活科改訂の趣旨		○現行指導要領から「目標の改善」「内容及び取扱いの改善」の概要を理解する。						
5	生活科の目標		○教科目標の構成とその趣旨についての解説を聞き生活科の特徴を理解する。						
6	学年目標（2学年共通）と内容の構成・階層性		○2 学年にわたる学年目標の意味や階層的に構成されている内容のあらましを理解する。						
7	生活科の内容－1		○内容構成について下記を参考に理解する。 ・内容の基本的な視点 ・具体的な学習活動やスタートカリキュラム等 ・内容構成と学習指導案の実際 ・「学校のまわり」を調べる体験学習活動を行う。 （イラストマップの作成など）						
8	生活科の内容－2								
9	生活科の内容－3								
10	生活科授業展開の事例研究－1		○県内小学校の実践資料や発表資料をもとに実際の授業のあらましを理解する。						
11	生活科授業展開の事例研究－2		○同上						
12	生活科と総合的な学習の時間		○「生活科」と3年生以降の「総合的な学習の時間」との関係性について理解を深める。						
13	（栽培活動「野菜の収穫を体験しよう。」）		○成長の様子を見ながら（収穫の適期に合わせ）野菜の収穫を行い、体験活動の自己評価をする。						
14	保・幼・小の連携の在り方		○幼児期から児童期への発達を視点に、小学校生活への円滑な適応のための連携を探る。						
15	まとめの評価		○生活科の役割と幼児期における保育との関連や授業の実際についてまとめと評価を行う。						
テキスト		文部科学省：『小学校学習指導要領解説 生活編』							
参考文献		特定せず。（その都度、関連する書籍等を紹介する）							

栽培活動…二名一組の編成により「ジャガイモ」の栽培を行う。植え付けと収穫時に二回の授業を充て、野菜栽培の手順や実施方法のあらましを理解し、実践活動を行う。また、気象状況等を見ながら必要に応じて適宜講義の一部時間を観察等に充てることもある。

科目名	相 談 援 助	必修・選択	必 修	授業形態	演 習	評価の方法	試験	80%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	20%
担当者	藤原 法生	単位数	1	学年・期間	2 年 期 前 期			
授業のねらいと概要		保護者等が抱える様々な問題に対応できるよう、相談援助の基本とその活用方法について学ぶ。						
到達目標		・ 相談援助の基本を理解する。 ・ 対象者が主役の援助活動について理解する。 ・ 援助者に求められる基本的態度を身につける。						
学習者への期待（含準備学習）		援助者に必要な知識と技術の習得だけでなく、他者と自己の理解を深めてほしい。自分や他者のコミュニケーションの特性を意識して生活し、学習に生かしてほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		保育と相談援助					
2	相談援助の基本（1）		専門対人援助関係					
3	相談援助の基本（2）		援助者の自己覚知					
4	相談援助の基本（3）		援助者の基本姿勢、信頼関係					
5	相談援助の基本（4）		コミュニケーション①					
6	相談援助の基本（5）		コミュニケーション②					
7	相談援助の体系		直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術					
8	ケースワーク（1）		ケースワークの定義と原則①					
9	ケースワーク（2）		ケースワークの原則②					
10	ケースワーク（3）		ケースワークの展開過程					
11	ケースワーク（4）		ケースワークの方法と技法①					
12	ケースワーク（5）		ケースワークの技法②					
13	グループワーク（1）		人間と集団、グループワークの定義					
14	グループワーク（2）		グループワークの原則					
15	グループワーク（3）		グループワークの展開過程					
テキスト		小林育子・小舘静枝・日高洋子著：『保育者のための相談援助』（萌文書林）						
参考文献		なし						

科目名	保育相談支援		必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	80%
担当者	蛭田 一美		単位数	1	学年・期間	2 年 後 期		レポート	－
								提出課題	15%
								授業態度・意欲	5%
授業の ねらいと概要		・子育て支援・保育相談支援の必要性について理解する。 ・実社会の現状と課題について考え、保育における保護者支援のあり方を学ぶ。							
到達目標		・保育の現場における子育ての諸課題に関心を持つ。 ・地域の子育て支援の場で実体験し、専門職に求められる子育て支援について考察する。 ・保護者との信頼関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につける。							
学習者への期待 （含準備学習）		・子育て支援の場でのボランティアを課題とする。積極的に地域の情報を収集し自ら取り組んでほしい。 ・聖園祭において、グループのメンバーと協力し、子育て支援の場を企画し責任を持って取り組むことを期待する。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	子育て支援とは何か			子育て支援の定義					
2	保育相談支援とは何か			保育相談支援の意義					
3	子育て支援と保育者のかかわり			子どもの成長発達と保育者					
4	子育て支援の実際Ⅰ（グループ活動企画）			学園祭において取り組む企画					
5	子育て支援の実際Ⅱ（グループ活動企画）			内容・教材準備・子どもの受けいれ・場の設定					
6	国の子育て支援と次世代育成			子育て応援プランの理解					
7	子育て環境の支援			地域の子育て支援とは					
8	ネットワークと支援			地域における支援とは					
9	園が親を支援するとは			親の悩みを受け止める実際とは					
10	親が望む支援とは			家族形態、就労形態で異なる支援内容					
11	多様性のある支援とは			支援の現状と求められる多様性					
12	保育相談支援の実際			保護者支援の方法と技術					
13	保育の場における子育て支援Ⅰ			具体的な支援					
14	保育の場における子育て支援Ⅱ			園便り・クラス便りの役割					
15	保育の場における子育て支援Ⅲ			連絡帳の記入・クラス便りの作成					
テキスト		適宜、授業で資料を配布							
参考文献		『保育所保育指針解説書』 『幼稚園教育要領解説』							

科目名	家族援助論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	20%
担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期			
授業のねらいと概要		家族を取り巻く様々な課題とその援助体系や方法について学ぶ。						
到達目標		・家族を取り巻く現状について理解する。 ・相談援助の基本を活用し、具体的な対応方法を検討することができる。						
学習者への期待 (含準備学習)		現代の家族には、どのような問題や課題が発生しそれをどのように解決していくのか、身近なテーマとしてとらえて学習してほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		家族の福祉					
2	家族と家族援助		家族・家庭の定義と機能、家族援助の定義					
3	子どもと家庭（1）		家族の形態					
4	子どもと家庭（2）		家族と地域					
5	家族を取り巻く状況（1）		少子社会、家族の変化と多様化					
6	家族を取り巻く状況（2）		家族に起こる諸問題					
7	家族を取り巻く状況（3）		家族に起こる諸問題					
8	家族支援の方法と過程（1）		家族支援の取り組み					
9	家族支援の方法と過程（2）		支援の基本、支援過程					
10	家族支援の方法と過程（3）		支援の視点、情報提供					
11	家族支援の実例（1）		親のニーズと子どものニーズ					
12	家族支援の実例（2）		ケース別対応（DV）					
13	家族支援の実例（3）		ケース別対応（虐待）					
14	家族支援の実例（4）		ケース別対応（障害児）					
15	まとめと今後の展望							
テキスト		土谷みち子著：『家庭支援論』（青踏社）						
参考文献		なし						

科目名	子どもの保健ⅠB	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	65%
							レポート	—
							提出課題	5%
							授業態度・意欲	30%
担当者	武田 留美	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期			
授業のねらいと概要		子どものみならず、人を取り巻く環境の変化などから様々な心身の問題が近年取り上げられている。その背景の理解や対応を学ぶ。						
到達目標		・精神疾患を含む心の諸問題への知識の習得と一般的な対応について理解する。 ・健康とメンタルヘルスを学ぶことにより、自分自身の健康や自分らしい生き方に関心を持つ。						
学習者への期待（含準備学習）		保育者として、子どもだけではなく保育者への対応が求められている。自分自身も含め、様々な「ひと」の健康に関心を持ち理解を深めてほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		授業の進め方					
2	子供の成長と発達		成長と発達～運動発達と精神発達、環境との関係					
3			発達障害の復習、保育・療育をどのようにおこなうか					
4	心の諸問題・精神疾患		生活習慣、神経症、慢性疾患					
5			統合失調症、うつ病					
6			アルコール・薬物依存					
7			摂食障害					
8			心身症・不安障害					
9			リストカット・習癖異常					
10			ストレスについて					
11	メンタルヘルス		母子のメンタルヘルス～妊娠・出産・育児を行う母の心理と行動 イクメン～男性の立場から見た育児					
12			自分らしさとは何か					
13			DVについて考える					
14	子どもを取り巻く状況とは		現在の問題について考える					
15	保育者のメンタルヘルス		自分自身の健康を考えよう					
テキスト		なし						
参考文献		その都度、書籍、資料を紹介していく。						

科目名	保育者論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							レポート	40%
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	20%
担当者	安藤 節子	単位数	2	学年・期間	2 年後 期			
授業のねらいと概要		保育者の役割、職務内容を理解する。 保育における幼児理解の重要性を自覚し、具体的な理解について学ぶ。 社会の変化と保育の歴史を学びこれからの保育について考える。						
到達目標		・幼稚園・保育所の1日と保育者の動きを意識する。 ・生活者としての保育者の役割を理解する ・環境の構成と再構成について学ぶ						
学習者への期待 (含準備学習)		保育全般について、広く問題意識を持ってほしい。 豊かな人間性を持ったひとりの人としてすべての生活を見直してほしい。 保育における環境に関心を持ってほしい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	幼児理解の実際		学生の事例から					
2	同上		学生の事例から					
3	同上		学生の事例から					
4	保育の環境をとらえる		実践事例					
5	同上		実践事例「環境の再構成」					
6	遊びを通しての総合的な指導		自然物での遊び					
7	同上		素材での遊び					
8	保育の形態について		一斉保育と自由保育					
9	協働的活動とは		活動の歴史的変化					
10	発達の時期に応じた保育		ビデオ視聴から					
11	同上		事例研究					
12	家庭との連携		実践事例「ロボットカミイ」					
13	地域との連携		同上					
14	生活者としての保育者		保育における生活について					
15	保育者のチームワーク		保育者としての生き方					
テキスト		『保育用語辞典』・『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説書』・『幼稚園真諦』 『最新保育講座6 保育方法・指導法』						
参考文献								

科目名	教育原理	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							レポート	50%
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	10%
担当者	小林 建一	単位数	2	学年・期間	2 年期 前 期			
授業のねらいと概要		教育の意義や歴史、制度、内容と方法、現状と課題などについて、幼児教育に重点をおきながら体系的な学習を進め、教育全般について理解を深める。テキスト・プリント・パワーポイント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。						
到達目標		・教育の基本的な知識を身につけ、教育の可能性と限界が理解できるようになる。 ・教育の現状をとらえ、今後のあり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・自らの教育についての考え方を表現する力が身につくと同時に、実際に教育を展開する技能の基礎が培われる。 ・子どもの豊かな発達・成長を保障する教育への関心・意欲・態度が育つようになる。						
学習者への期待（含準備学習）		事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。授業中に生じた疑問点等については質問するなど、学習への積極的な取り組みを期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	教育とは何か		教育の意義と目的、素質と教育（内容を説明し、教育の可能性と限界について考えてもらう。）					
2	発達と教育		発達と学習、生涯発達と幼児期の教育（さまざまな学説を紹介し、自己の成長の問題として振り返る機会とする。）					
3	幼児教育・保育の制度		幼稚園と保育所の歴史、認定こども園（テキストの記述をふまえ、幼稚園・保育所・認定こども園の将来像について意見を述べさせる。）					
4	教育課程の基本		教育課程とは何か、幼稚園教育の基本（幼稚園教育要領をもとにグループで討議し考えてもらう。）					
5	教育課程の編成		幼稚園教育の目的・目標、領域のねらい・内容（具体的に示し、教育課程の編成にとって何が必要かの理解をはかる。）					
6	指導計画		指導計画の種類、指導計画の作成（実際例を示し、形式・内容を分析・評価するワークを課す。）					
7	教育の方法（1）		環境を通して行う教育、遊びを通して行う教育（テキストの記述を分析し、これらの方法のねらいと今後の課題を発表させる。）					
8	教育の方法（2）		保育の形態、保育の方法（指導法）（内容を説明したうえで、課題の解決に必要なワークの体験をさせる。）					
9	教育評価		評価の必要性和対象、評価のすすめ方（内容を説明し、問題点や課題を探るワークを課す。）					
10	教師の役割		専門職としての教師、教師の態度や援助のあり方（映像資料をもとにしたグループ討議の結果を発表し、批評しあう。）					
11	子ども観の歴史（1）		諸外国の幼児教育思想、日本の幼児教育思想（あらましを説明し、違いや影響について考えてもらう。）					
12	子ども観の歴史（2）		幼児教育思想の実践から学ぶ（記録映像を視聴し、その意義についての自己の見解と感想を記述させる。）					
13	教育の現代的課題（1）		幼稚園・保育所と小学校との連携、早期教育、多文化教育（内容を説明し、現状と課題を認識できるようにする。）					
14	教育の現代的課題（2）		防災教育、防犯教育（実践事例を参考に、グループで討議し指導計画案を作成する機会とする。）					
15	教育の現代的課題（3）		いのちの教育、心の教育（実践事例を参考に、幼児期にふさわしい教育のあり方を考え、提案してもらう。）					
テキスト		小林建一：『保育者のための教育原理』（三恵社） 文部科学省：『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）						
参考文献								

科目名	保育の心理学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	－
							レポート	－
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	60%
担当者	武田 留美	単位数	1	学年・期間	2 年 後 期			
授業のねらいと概要		子どもが学習を通して成長していく過程を理解する。						
到達目標		・ 子供の経験や学習を通しての発達・成長を理解する。 ・ 保育現場での発達援助の方法を習得する。						
学習者への期待（含準備学習）		前半は学習の過程を講義形式で学び、後半は事例や具体的な対応の仕方、援助技法などを提示していく予定。子どもと接する中での疑問や意見など積極的な発言を期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	子どもの発達		発達理解の重要性					
2	学びの過程		思考の発達					
3			記憶の発達					
4			知的能力の発達					
5			学習と学習環境					
6			学習不振と学習障害					
7			学びの過程のまとめ、小テスト					
8	保育における発達援助		発達の遅れをみる視点					
9			考えてみよう～おむつ外し、偏食…チームでアイデアを出そう					
10			考えてみよう～幼稚園での子ども同士のトラブル…どう対応する？					
11			発達の課題のある子への対応方法（１）					
12			発達に課題のある子への対応方法（２）					
13	事例検討		事例（１）事例から発達に遅れのある子への対応を考えてみよう					
14			事例（２）事例から育児相談について考えてみよう					
15	危機場面に面したとき		事件・事故・災害に遭遇したら～援助者として、また被害者として					
テキスト		なし						
参考文献		その都度、書籍、資料を紹介していく。						

科目名	発達心理学	必修・選択	選 択	授業形態	講 義	評価の方法	試験	—
							レポート	20%
							提出課題	—
							授業態度・意欲	80%
担当者	武田 留美	単位数	1	学年・期間	2 年 前 期			
授業のねらいと概要		幼稚園や保育所等で遭遇する諸問題に対応する方法を学ぶ。						
到 達 目 標		・子どもの日常的な言動から、発達を理解する視点を養う。 ・保育者対応も含め、幼稚園や保育所等で遭遇する諸問題に対応するための基礎を習得する。						
学習者への期待（含準備学習）		担当者よりの一方的な講義ではなく、演習を多く取り入れながら学んでもらう予定。受講者の興味・関心・タイムリーな話題を取り入れながら、保育現場で必要な知識を具体的に提示して考えていきたいと考えているのでシラバスは参考と考えてほしい。受講者には積極的な参加を期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		授業の進め方					
2	発達の基礎知識		愛着の発達					
3			かかわりの発達					
4	親子を支える保育者のかかわり		保育場面での「気になる」子ども					
5			保育カウンセリングと保育					
6			日々の保育実践の蓄積を生かす					
7	話のきき方トレーニング		「きく」とは？～「聴く」練習（1）					
8			「聴く」練習（2）					
9	事例検討		「気になる子」の事例～あなたならどう考える？					
10			「対応に困る保護者」の事例～チームで考えてみよう					
11	発達援助の実際		発達援助の実際（1）					
12			発達援助の実際（2）					
13			リラクセーションを体験しよう					
14	地域の中での保育の役割		今、保育者に求められていることとは？					
15	予備日		まとめと復習					
テ キ ス ト		なし						
参 考 文 献		その都度、書籍、資料を紹介していく。						

科目名	教育制度	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	60%
							レポート	－
							提出課題	－
							授業態度・意欲	10%
担当者	小林 建一	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期		小テスト	30%
授業のねらいと概要		教育制度に関わるさまざまな歴史的・法制的・時事的な問題や課題について学び、視野の広い保育者として必要な知識・教養を身につけるとともに、教育・保育実務に対応できる基礎的な態度や能力の形成を目指す。テキスト・プリント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う						
到達目標		・教育制度の基本的な知識を身につけ、教育を制度面から理解できるようになる。 ・教育への法や政治などのかかわり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・制度に対する批判や制度のあるべき姿について自らの考えを表現する力が身につくと同時に、学習成果を教育・保育の現場において活用する技能の基礎が培われる。 ・子どもの権利を保障する教育のしくみへの関心・意欲・態度が育つようになる。						
学習者への期待（含準備学習）		事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。授業中に生じた疑問点等については質問するなど、学習への積極的な取り組みを期待する。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	公教育と保育制度		私事と公制度としての保育、保育にかかわる免許や資格（あらましを説明し、相互の関係を整理するワークを課す。）					
2	法制はなぜ必要か		法にはどんな種類があるか、教育法の体系とは（法および教育法の構造を具体的に明らかにし、法制の必要性について考えてもらう。）					
3	教育を受ける権利と法（1）		子どもの権利と憲法、法律、条約、憲章のかかわり（各関係を対話方式で明らかにし、子どもの教育にとっての意味を探究させる。）					
4	教育を受ける権利と法（2）		教育基本法の役割（全条文の意味と解釈を対話方式により明らかにし、教育にとってどのような役割を果たしているか考えてもらう。）					
5	就学前教育制度について		幼保二元体制、幼保一元化（テキストを参考にしながら、自分なりに制度を構想し、記述するワークを課す。）					
6	義務教育制度について		義務の意味、初等教育制度（内容を説明し、自己の体験からこれらの制度のもつ意味を考え、発表する機会とする。）					
7	学校教育制度のあらまし（1）		中等教育制度、高等教育制度（あらましを説明し、自己の体験に照らしてこれらの制度のもつ意味を考えてもらう。）					
8	学校教育制度のあらまし（2）		特別支援教育制度、私立学校制度（あらましを説明し、これらの制度がなぜ必要かを考えてもらう。）					
9	社会教育・生涯学習のあらまし		社会教育・生涯学習とは、幼児期の発達と生涯学習（内容を説明し、学校教育以外の教育の役割と課題を探究させる。）					
10	幼児期の教育と家庭・地域		家庭における教育、地域における教育（テキストの記述から、グループごとに現状と課題をとらえ、発表し批判し合う機会とする。）					
11	体罰と虐待の法律問題		懲戒・体罰、虐待への法のかかわり（事例や映像資料にもとづいて実態をとらえ、法による対処のスキルを身につけさせる。）					
12	保育者と労働問題		保育者の労働権と服務、保育者の勤務条件（テキスト、プリントにより知識を整理するワークを課す。）					
13	保育事故と法的責任		幼稚園・保育所における事故防止の責任、事故発生時の法的責任（テキスト、プリントにより知識を整理するワークを課す。）					
14	幼稚園・保育所経営		幼稚園・保育所経営のあり方、クラス経営の望ましい姿（あらましを説明し、それぞれの経営について仮想し、グループで意見交換する。）					
15	教育行財政		教育行政・教育財政とは、中央教育行政組織と教育委員会制度（テキスト、プリントにより知識を整理するワークを課す。）					
テキスト		小林建一：『保育に役立つ教育制度概説』（三恵社）						
参考文献		『保育六法（第2版）』（信山社）						

科目名	教育・保育課程総論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	60%
							レポート	20%
							提出課題	－
							授業態度・意欲	20%
担当者	猿田 興子	単位数	2	学年・期間	2 年期 前 期			
授業のねらいと概要		この授業は、幼児の実態に即応した指導計画のあり方を探る講義を通して、実習で行う自身の活動の指導計画作成を行う。その実践で学んだことを中心にして、創意工夫した日々の保育で幼児が充実した園生活が送れる内容を感じとり、学んでいくことをねらいとする。						
到達目標		・様々な保育の計画を知り、それが保育内容の充実や質の向上に関わる事を理解する。 ・幼児の実態に即した保育の計画とその実践・評価を理解する。 ・幼児が充実した園生活が送れるための指導計画であることに気付く。						
学習者への期待 (含準備学習)		多様な指導案と実践事例を通して、子ども理解と教育・養護と指導計画の関係を具体的に理解することを望む。理論と実践がつながり、学生自ら保育を創りあげる喜びを感じる授業となっていきたい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	幼稚園・保育園の役割と指導計画		幼稚園・保育園の役割について・幼児の生活する姿をとらえる 幼児の生活と幼稚園・保育園における指導について					
2	指導計画作成のポイントⅠ		指導計画と幼児理解との関係について 指導計画の具体的な内容を知る					
3	指導計画作成のポイントⅡ		ねらい・内容・環境の構成について 指導計画作成の実践について					
4	指導計画作成の手順		指導計画作成上の配慮点について 6月保育実習（総合実習）用の指導案作成の実践					
5	指導計画作成Ⅰ		保育者の援助・配慮点の記述について 保育の見通しと保育用語の特徴をとらえる					
6	グループディスカッション		年齢別グループに分かれて指導案について話し合う 他の学生の発表から視野を広げる					
7	指導計画と保育の実践		ビデオ視聴を通して 指導計画と保育・指導計画と子どもの姿・その関係から					
8	長期の指導計画についてⅠ		幼児の生活する姿を見通す 指導の重点・長期の指導計画について探る					
9	長期の指導計画についてⅡ		幼稚園・保育園と地域の環境と長期指導計画について 事例を通して考える					
10	短期の指導計画について		一日の生活の流れを予想した指導計画について 事例を通して考える					
11	短期の指導計画と保育の展開Ⅰ		日常の生活場面における保育の展開について ビデオ視聴を通して					
12	短期の指導計画と保育の展開Ⅱ		保育の展開と望ましい保育者の姿勢について探る 事例を通して考える					
13	指導計画作成Ⅱ		11月教育実習（総合実習）用の指導案作成の実践					
14	指導計画作成		様々な指導計画例にふれる					
15	まとめ		いままでの学びから自分の保育を作り上げる期待と関心を持つ					
テキスト		文部科学省：幼稚園教育指導資料第1集 『指導計画の作成と保育の展開』（フレーベル館）						
参考文献		『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『保育用語辞典』						

科目名	保育内容総論	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
							レポート	40%
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	20%
担当者	安藤 節子	単位数	1	学年・期間	2 前期			
授業のねらいと概要		保育内容について、実践に即しながら総合的に学ぶ。遊びや生活の総合性について理解する。						
到達目標		・保育や乳幼児の生活や遊びについて、領域ごとに抑えながらかつ総合的に理解する。 ・乳幼児の生活や遊ぶ姿について、発達のな理解と内面理解ができるようになる						
学習者への期待（含準備学習）		実習での経験を思い起こし、授業の内容と照らし合わせ、自分なりの意見や考えを持つように。授業で渡すプリントは自分なりに書き込みをいれ、保管すること。						
回	授業計画		授業内容					
1	保育における個と集団		集団の育ち					
2	同上		個の育ち					
3	同上		かかわりの育ち					
4	遊びによる総合的な指導とは		実践事例「足跡探検」より					
5	同上		領域のとらえ方と総合的指導					
6	同上							
7	環境による教育		保育における環境について					
8	同上		活動の考え方					
9	同上		園庭・園舎・保育室					
10	生活の中の学び		素材					
11	同上		実践事例 「子どもたちの任せることで見えきた育ち」					
12	同上		領域別のとらえ方					
13	プロセスをとらえる		総合的にとらえるとは					
14	ふさわしい生活とは		絵の表現に見る子どもの変化					
15	まとめ							
テキスト		『最新保育講座 6 保育方法・指導法』 『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説書』 『保育用語辞典』						
参考文献		『最新保育講座 8 保育内容 人間関係』						

科目名	保育内容の指導法 健 康		必修・選択	必 修	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	—
								レポート	70%
								提出課題	10%
								授業態度・意欲	20%
担当者	鈴木 万紀子		単位数	2	学年・期間	2 年 前 期			
授業のねらいと概要		領域「健康」のねらいと内容について理解する。乳幼児期の「心身の健康」について学び、保育者の関わり方や環境の構成を考え、様々な運動あそびを知る。							
到 達 目 標		・心と体の健康は相互に関連しあっていることを学ぶ。 ・健やかな心と体を支えるための保育内容を、環境の構成や援助の仕方を通して生活や遊びの中に具体的に生かしていくことを学ぶ。							
学習者への期待（含準備学習）		心と体の関連性について考え、保育の中での具体的な指導に結びつけていく。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	領域「健康」の理解			保育の基本とは					
2	〃			保育所保育指針、幼稚園教育要領のねらいと内容					
3	保育の基本と「健康」			養護と教育の一体とは					
4	健やかな心と体を支えているもの			乳幼児の発達の捉え方					
5	〃			乳幼児と保育者の関係性					
6	〃			乳幼児の遊びと活動意欲の発達					
7	〃			食育について					
8	「健康」と保育方法			環境構成と保育者の役割					
9	「健康」と保育の実践			心の安定を持つこととは					
10	〃			健康や病気について考える					
11	「健康」の指導上の留意点			子どもの体力づくりとは					
12	〃			保育環境の安全性					
13	「健康」と指導計画			年齢にあった運動遊びの指導計画の作成					
14	〃			年齢にあった運動遊びの指導計画の発表、見直し					
15	「健康」における問題点			スポーツ指導、管理的指導、安全指導について					
テ キ ス ト		なし							
参 考 文 献		『保育所保育指針』 『幼稚園教育要領解説』							

科目名	保育内容の指導法 表 現	必修・選択	必 修	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	—
							レポート	—
担当者	蛭田 一美	単位数	2	学年・期間	2 年 期 前 期		提出課題	60%
							授業態度・意欲	5%
							実技試験	15%
グループワーク							20%	
授業のねらいと概要		領域「表現」のねらいと内容を学びながら、幼児理解を深める。 感じる・考える・行動するなど表現の原点としての保育内容を考え、豊かな表現者としての保育者のあり方を考える。						
到 達 目 標		・保育内容として領域「表現」のねらいと内容を理解する。 ・子どもの表現行動の過程に関心を持ち、保育者のあり方を考える。 ・保育における子どもの多様な表現を読み取る。						
学習者への期待 (含準備学習)		・子どもの表現活動が他の領域と関連し、重なりながら展開する過程に関心を持つ。 ・保育の実際の場における実践力を高めるために自分なりの課題を持つ。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		表現のワークショップ					
2	保育の基本と領域「表現」		幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらいの理解					
3	保育内容「表現」とは		領域「表現」と保育者の役割					
4	音・音楽に対する感性と表現Ⅰ		音楽的表現の芽生え					
5	音・音楽に対する感性と表現Ⅱ		子どもの感性を育む音環境					
6	保育内容「表現」の歴史的変遷		領域「表現」の誕生と他の領域との関連					
7	造形に対する感性と表現Ⅰ		「感じて」「考えて」「行動する」ことの重要性					
8	造形に対する感性と表現Ⅱ		造形的思考力と「表現」					
9	表現を育む環境とは		子どもが感じ取るものとしての環境					
10	保育者の役割と援助Ⅰ		表現者としての存在					
11	保育者の役割と援助Ⅱ		表現者としての成長					
12	保育の実際（グループワークⅠ）		グループワークの計画					
13	保育の実際（グループワークⅡ）		グループワークの実践					
14	保育内容「表現」の課題		保育者自身の表現力を育むために					
15	まとめ							
テ キ ス ト		平田智久・小林紀子・砂上史子編 『最新保育講座 11 保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房）						
参 考 文 献		『保育所保育指針解説書』 『幼稚園教育要領解説』						

科目名	乳児保育Ⅱ	必修・選択	選 択	授業形態	講 義	評価の方法	試験	70%
							レポート	10%
							提出課題	—
							授業態度・意欲	20%
担当者	鎌田 妙子	単位数	1	学年・期間	2 年 期 前 期			
授業のねらいと概要		乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎をつくる時期である。乳幼児期を充実させるために、理論と知識を具体的事例を通して理解する。						
到 達 目 標		・発達の特性や発達過程を理解し、専門性を身につけることができる。 ・一人ひとりの子どもの育ちをあたたく見守ることができる。						
学習者への期待（含準備学習）		知識だけにとらわれることなく、一人一人のこどもに丁寧に愛情深く関わり子どもの豊かな育ちを願う保育士を期待する						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	乳幼児期の発達の特性		人への信頼感の基礎が育つ 発達の個人差の配慮 生きる力の基礎を培う					
2								
3	保育所の役割		子どもの最善の利益の尊重 乳幼児期の生活の場を豊かにする					
4								
5	保育所の特徴		専門性を有する職員による保育 複数担任制と担当制の理解					
6								
7	保育の環境		環境を通して行う保育の意味 事例から 生き生き遊ぶための保育者の援助の在り方					
8								
9	乳児の心と体の発達		事例から K児の発達から見えてくるもの					
10								
11	保育活動を支えるもの		保育所園内の連携 保育計画記録・評価 家庭との連携					
12								
13	保護者への支援		乳幼児の保育に関する相談、助言についての社会的役割					
14								
15	まとめ		保育者として求められるもの					
テキスト		なし						
参 考 文 献		阿部和子著：『乳児保育 子どもの豊かな育ちを求めて』（萌文書林） 『保育所保育指針』						

科目名	社会的養護内容	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	70%
							レポート	－
担当者	国枝 幸子	単位数	1	学年・期間	2 年期 前期		提出課題	20%
							授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要		・社会的養護における保育士の役割の重要性とその内容を理解する。 ・社会的養護の基礎理論を踏まえ、より深く、より具体的に児童の援助方法を知る。 ・事例を通して実践的な側面に触れ、適切な児童処遇のあり方を考える。						
到達目標		・社会的養護のプロセスとその過程における援助の内容が分かる。 ・社会的養護における事例をめぐっての児童との適切な関わりの方法が分かる。 ・親子関係の援助方法、地域との関わりにおける施設のあり方などを理解する。						
学習者への期待 (含準備学習)		・援助を必要とする児童の人権擁護、自立支援を行う保育士として専門性を身に着けるようにする。 ・施設実習の準備、または復習として事例と理論を結びつけながら、熱心に学ぶこと。 ・各自の実習施設について、資料を探し、自ら積極的に学ぶようにする。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	今日の養護問題と保育士の役割		社会的養護における保育士の役割、今日の家庭状況及び社会的養護の状況					
2	社会的養護の展開と留意点		アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケア 施設養護の利点、欠点、自立支援、日常生活援助					
3	児童養護施設の基本的援助・自立支援		日常生活援助（衣食住、保健衛生、金銭管理）					
4	学習指導、余暇活動		環境整備、指導内容、レクリエーション					
5	施設の小規模化と援助		小規模地域児童養護施設、ファミリーホームにおける援助					
6	里親制度		里親委託、専門里親、レスパイトケア					
7	乳児院の生活		愛着関係、担当制、親子関係、家庭復帰					
8	児童自立支援施設における生活		非行、生活指導、学習指導、作業指導					
9	母子生活支援施設における生活		DV、シェルター、母と子の自立支援					
10	肢体不自由児施設における生活 重症心身障がい児施設		早期療育と生活指導					
11	知的障がい児施設における生活 児童家庭支援センター・児童館		自己決定、社会的許容、自閉症児施設 相談援助、子育て支援					
12	情緒障がい児短期治療施設 一時保護所		虐待、トラウマ、心理療法、家族との連携 虐待と緊急入所					
13	児童自立生活支援事業		リービングケア、アフターケア、自立援助ホーム、生活指導、就業指導					
14	テスト課題について		課題説明と復習、補充					
15	テスト返しとまとめ		回答と説明					
テキスト		辰己隆・岡本眞幸：『改訂 保育士をめざす人の社会的養護内容』（みらい）						
参考文献		『社会福祉小六法 2013 年版』（ミネルヴァ書房） 小木曾宏・宮本秀樹他編：『よくわかる養護内容・自立支援』（ミネルヴァ書房）						

科目名	援助に生かす心理学	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	65%
							レポート	—
							提出課題	5%
							授業態度・意欲	30%
担当者	武田 留美	単位数	2	学年・期間	2 前期			
授業のねらいと概要		心理療法やカウンセリングの基礎となる心理学的援助理論を理解する。保育現場で子どもや保護者への支援を行う際の考え方の基本を習得する。						
到達目標		・心理学的援助理論について習得する。 ・発達障害への理解を深める。 ・虐待や保育現場での‘気になる子’への理解と対応の基本を習得する。						
学習者への期待（含準備学習）		様々な援助理論の立場から、子どもを理解する視点を学んでほしい。また、発達障害を含め保育現場では様々な‘気になる子’がいる。特徴を理解し、援助を考える際の視点が持てるようになることを目指す。						
回	授業計画		授業内容					
1	オリエンテーション		授業の進め方、援助に生かす心理学とは何か					
2	心理アセスメントの概要		心理テストと様々なアセスメント（1）					
3			心理テストと様々なアセスメント（2）					
4	心理学的援助の理論（臨床心理学の理論）		精神分析					
5			行動療法					
6			クライアント中心療法					
7			遊戯療法、芸術療法					
8			様々な心理療法（短期療法、臨床動作法など）					
9	乳幼児の心の諸問題		各発達段階の課題と諸問題					
10	発達障害		発達障害の捉え方～様々な発達障害（1）					
11			発達障害の捉え方～様々な発達障害（2）					
12	虐待		虐待の定義、関連する法律					
13			虐待の心理的影響、保育者としてできること					
14	地域における子育ての連携と保育		子育ての現状と課題、地域との連携					
15			子育て不安をどう支えるか					
テキスト		なし						
参考文献		その都度、書籍、資料を紹介していく。						

科目名	保育・教職実践演習 (幼稚園)	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	各コースによる
							レポート	
							提出課題	
							授業態度・意欲	
担当者	永井 博敏 他 11 名	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期			
授業の ねらいと概要		これまでの保育専門科目の履修を振り返り、不足している知識・技術等を補い、実践的指導力について総合的に学ぶ。幼児理解、保育内容の指導力の向上、対人関係能力などについて、調査や実技、グループ討論、模擬授業などをおして理解を深める。						
到達目標		・保育者としての使命感や責任感について自覚を高めることができる。 ・社会性や対人関係能力を身につけようとすることができる。 ・幼児理解に努め、保育内容の指導力を高めようとすることができる。						
学習者への期待 (含準備学習)		各自の不足を意識したり、興味・関心のある分野についてさらに伸ばそうと努めたりしながら、自己課題をしっかりともち学習に臨んで欲しい。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション・自己評価		1 年次及び 2 年次前期の授業を振り返り、自己評価を行う。					
2								
3								
4								
5	下記コースを選択する。							
6	・保育の現代的課題の探究							
7	・障がい児（者）に関する諸問題							
8	・子どもの視座からとらえた環境について							
9	・現代社会と家庭		自己評価に基づき、学生自らが、必要とする知識・技術・内容を選択し、授業のねらいや到達目標を考慮しながら、学習を進める。					
10	・運動あそびを楽しもう							
11	・造形表現<実技>							
12	・アンサンブルアラカルト							
13	・保育実技・その活用と展開							
14	・感性と言葉の育ち							
15	・コミュニケーションと相談援助							
16	・物語の創作・読み聞かせに挑戦							
17								
18								
19								
20	発表会		それぞれのコースにおける学びの集大成を発表する。					
テキスト		各コース担当者による。						
参考文献		各コース担当者による。						

科目名	保育実習指導Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
担当者	猿田 興子		単位数	1	学年・期間	2 年 通 年		レポート	—
								提出課題	30%
								授業態度・意欲	20%
								実習評価	40%
							実習記録	10%	
授業の ねらいと概要		この授業は保育所実習において、部分・総合実習に向けての準備と指導計画の理解・作成の実践を通して保育者の意識に近づく事をねらいとする。また、実習後の省察と課題を学生間で話し合い、実習での学びをより深める授業としたい。1、2年通じて行う。							
到達目標		・これまでの授業や実習体験を踏まえ、子どもの保育及び保育者の役割を総合的に理解する。 ・保育の計画、実践、記録、省察などの実際に取り組み、理解を深める。 ・保育者をイメージしながら自己の課題を明確化する。							
学習者への期待 (含準備学習)		体験を通した学生間の話し合いや発表を中心として互いの学び合いを重視する。実習経験をもとに、保育や子どもについて理論と実践をつなげていく。学生個人の主体的な参加を望む。							
回	授業計画			授 業 内 容					
1	オリエンテーション			保育所における総合実習について・養護と教育の一体とは					
2	保育計画の理解			実践に生かす指導計画とは・子どもの視点からの計画を考える					
3	総合実習に向けてⅠ			附属幼稚園模擬授業を通して《活動と遊びの姿を捉える》					
4	総合実習に向けてⅡ			附属幼稚園模擬授業を通して《計画と実践を知る》					
5	活動の考え方Ⅰ			保育者の願いと子どもの思いを事例から考える					
6	活動の考え方Ⅱ			興味・関心・発達段階・季節・経験					
7	遊びの総合的発達について			遊び・生活を領域で捉え、総合的発達につなげていく					
8	領域のとらえ方			各領域を通して遊びや生活での発達の姿を捉える					
9	活動のとらえ方			園生活の実態からの総合実習に向けて活動を考える					
10	環境の構成と主体的遊びについて			子どもの視座から環境を捉え直す					
11	日の指導計画立案について			ビデオ視聴を通して担当保育士・実習生の関わりを考える					
12	日の指導計画案作成			6月の子どもの姿に触れる					
13	保育所実習の振り返り			総合実習での省察を中心に振り返る《ディスカッション》					
14	保育所保育指針から			保育所保育指針を読み解く・保育の記録と保育所児童保育要録					
15	二年間の学びにおける自身の変容			子どもを観る視点の変化について					
テキスト									
参考文献		『保育所保育指針解説書』・『保育用語辞典』							